

特202

394

神戸高等商業学校一覽

昭和十一年十月纂



0051786-000

特202-394

神戸高等商業学校一覽

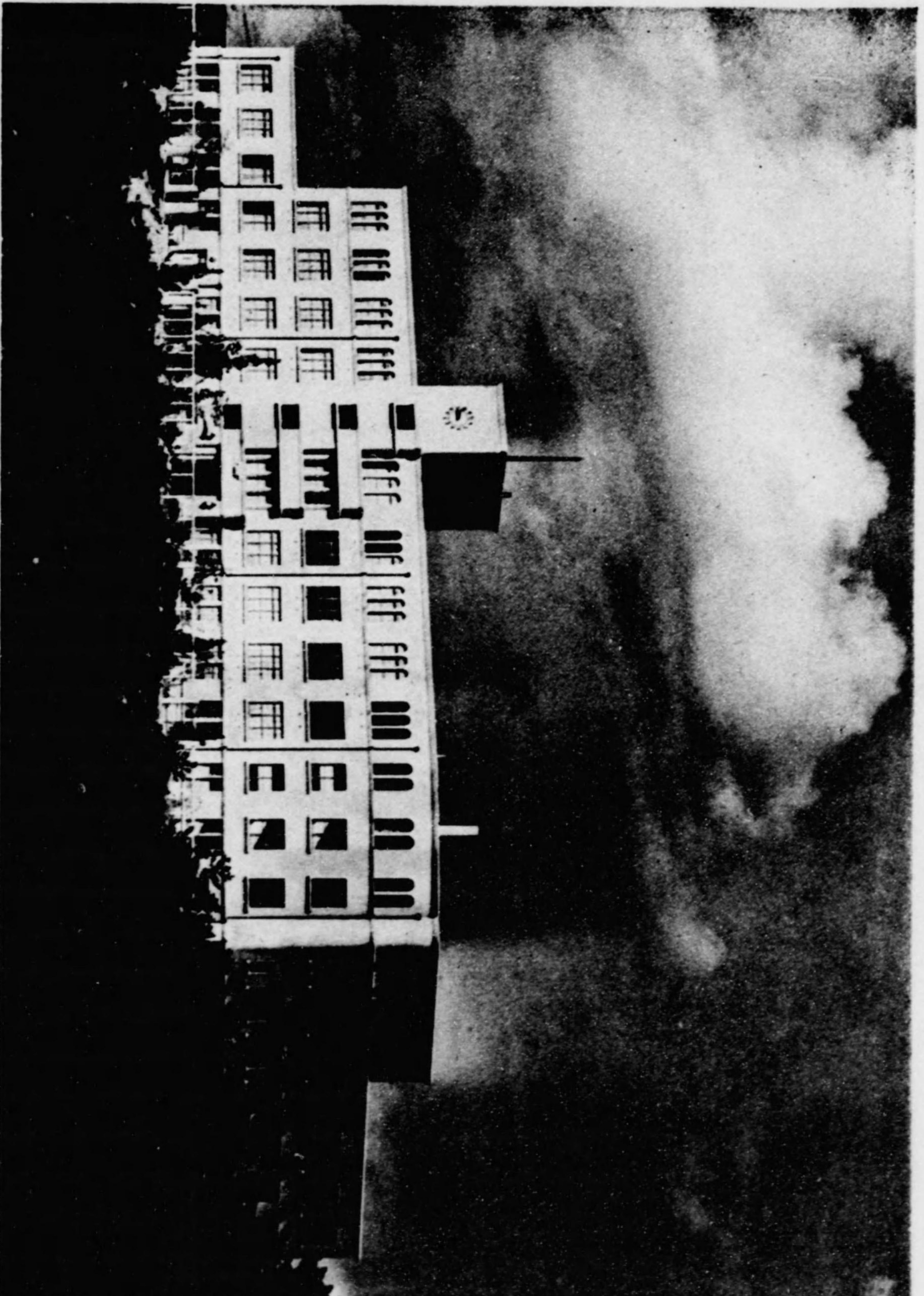
神戸高等商業学校

昭和11年10月纂

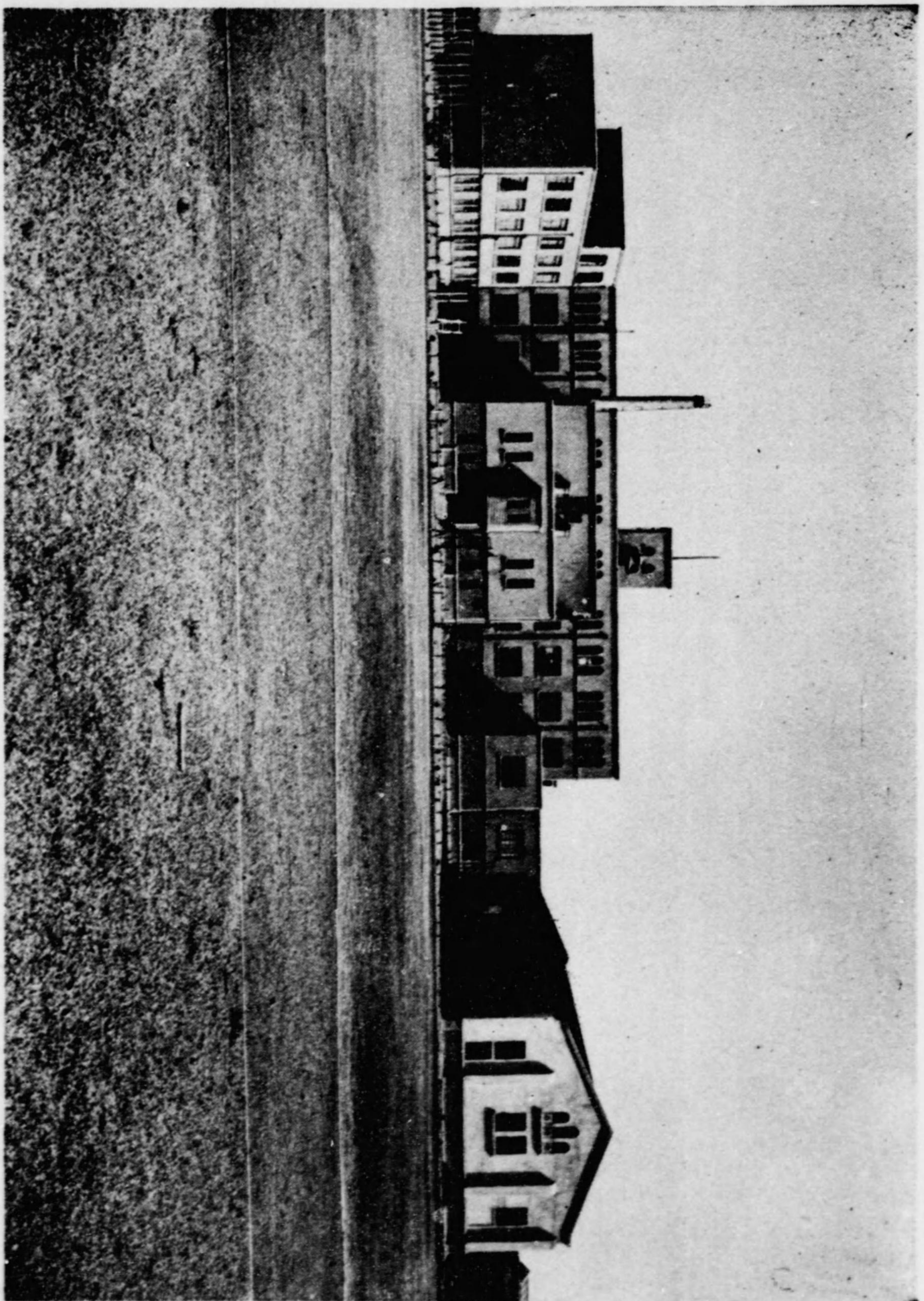
昭和11

AHN

特202
394.



(面 正 館 本)



(面 背 館 本)

三、學業成績考查規程	二七
○事務規程	二九
一、職員服務規程	二九
二、校務分掌規程	三〇
三、處務規定	三四
四、會議	三六
五、圖書規程	三六
六、警備規程	三九
七、當直規程	四〇
八、貿易研究室規程	四二
○職員	四四
○現職職員	四四
○事務分掌	四八
○舊職員	五一
○生徒	五三
○諸統計	六二
一、生徒募集人員、入學志願者及入學者ノ員數	六二
二、入學志願者及入學者ノ地方府縣別	六三
三、生徒出身學校別	六五
四、生徒年齡數表	七〇
五、生徒身體檢查表	七〇
六、生徒家庭職業別	七二

七、職員及傭人數表	七四
八、圖書冊數表	七四
○敷地及建物	七四
一、敷地	七四
二、建物	七五
三、配置 圖(末尾ニ附ス)	七七
○卒業生	七八
○關係法令	九五
一、實業學校令(抄)	九五
二、專門學校令(抄)	九五
三、公立私立專門學校規程(全)	九六
四、公立學校職員制(抄)	九九
五、公立學校職員待遇官等等級令(抄)	一〇〇
六、公立學校職員俸給令(抄)	一〇一
七、公立學校職員分限令(全)	一〇三
八、官吏服務紀律(全)	一〇四
九、公立專門學校長、實業專門學校長、高等學校長職務規程(全)	一〇五
一〇、陸軍現役將校學校配屬令(抄)	一〇六
一一、陸軍現役將校學校配屬ニ關スル訓令(抄)	一〇六
一二、教員免許令(全)	一〇七
一三、教員檢定ニ關スル規定(抄)	一〇八
一四、公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程(抄)	一一二

一五、海軍武官任用令(抄).....	一一二
一六、高等試驗令(抄).....	一一三
一七、高等試驗令第七條及第八條ニ依ル受檢資格ニ關スル件(抄).....	一一三
一八、計理士法(抄).....	一一三
一九、兵役法(抄).....	一一四
二〇、兵役法施行令(抄).....	一一五
二一、陸軍補充令(抄).....	一一六
二二、陸軍召集規則(抄).....	一一六
二三、學校教練及青年訓練修了者檢定規定(抄).....	一一〇
二四、各大學入學規則(抄).....	一一〇
二五、學生、生徒兒童、身體檢查規程(抄).....	一一二
二六、發育概評決定標準.....	一一四
○附錄	
一、學友會會則.....	一一五
學友會役員選舉規程.....	一一八
學友會會計規程.....	一二八
二、研究編輯會會則.....	一二九
三、神商會會則.....	一三〇
四、神戶高等商業學校淡水會會則.....	一三〇

○學年曆

昭和十一年	四月一日	第一學期始	春季休業始
同	四月三日	神武天皇祭	
同	四月七日	春季休業終	
同	四月二十二日	開校記念日	
同	四月二十九日	天長節	
同	七月十六日	夏季休業始	
同	九月十日	夏季休業終	
同	九月二十三日	秋季皇靈祭	
同	十月十五日	第一學期終	
同	十月十六日	第二學期始	
同	十月十七日	神嘗祭	
同	十一月三日	明治節	

昭和十一年	十二月二十三日	新嘗祭
同	十二月二十五日	大正天皇祭 冬季休業始
昭和十二年	一月一日	四方拜
同	一月三日	元始祭
同	一月五日	新年宴會
同	一月七日	冬季休業終
同	二月十一日	紀元節
同	三月二十一日	春季皇靈祭
同	三月三十一日	第二學期終

○沿革略

昭和三年

十二月二十一日 兵庫縣會ニ於テ兵庫縣立神戸高等商業學校設置案議決セラル。蓋シ曩キニ官立神戸高等商業學校ノ大學昇格決定以來兵庫縣下ニ專門學校程度ノ商業教育機關ヲ失フコトトナルヲ以テ之カ設置ヲ熱望スル者多ク相諮リテ之カ設置ニ必要ナル敷地及ヒ校舍建築費ノ寄附ヲ申請スルニ至リタルニヨル。

昭和四年

二月二日 文部省告示第十九號ヲ以テ實業學校令及專門學校令ニ依リ本校ヲ設置シ昭和四年四月ヨリ開校ノ件認可セラレソノ位置ハ垂水町トシソノ修業年限ハ三ケ年トスル旨公示セララル。

二月四日 兵庫縣告示第五十九號ヲ以テ本校假事務所ハ三月三十一日迄兵庫縣學務部學務課内ニ置キ校舍ハ當分ノ間縣立第一神戸商業學校ノ設備ノ一部ヲ使用スル旨公示セララル。

同日 兵庫縣令第四號ヲ以テ本校學則ヲ公布シ生徒約百五十名募集ノ件發表セララル。

二月十五日 兵庫縣書記官學務部長川崎末五郎本校校長事務取扱ヲ命セララル。

三月十五日 本日ヨリ第一回入學試驗ヲ施行シ志願者五百十六名中ヨリ百六十四名ニ入學ヲ許可ス。

四月十五日 本校職員會議第一回ヲ兵庫縣廳内ニ開ク。

四月十九日 本校事務所ヲ縣立第一神戸商業學校内假校舍ニ移ス。

四月二十二日 始業式ヲ舉行シ長知事ノ告辭及川崎校長事務取扱ノ式辭アリ。

同日 川崎末五郎本校校長事務取扱ヲ免セラレ前大阪商科大學教授伊藤眞雄本校校長事務取扱ヲ命セララル。

四月二十三日 授業ヲ開始ス。(假校舍ハ縣立第一神戸商業學校内ニテ六室ヲ借用シ其中三八教室一ハ事務室一ハ校長

室及教員室一ハ圖書室ニ充ツ、運動場其他ハ縣商ト共用シ教員ハ專任講師八名其他ノ講師十一名ナリ。
四月二十七日 第一回入學生ノ宣誓式ヲ舉行ス。

五月九日 本校學友會ヲ組織ス。

五月二十八日 父兄會ヲ開キ校長ヨリ本校ノ教育方針ニツキ説明ス。

六月五日 本校職員生徒代表者六十四名大阪練兵場ニ於ケル御親閲式ニ參加ス。

六月七日 聖上陛下神戸行幸ニツキ職員生徒奉送迎ヲナス。

八月八日 本校校長事務取扱伊藤眞雄公立實業專門學校長(勅任待遇)ニ任セラレ兵庫縣立神戸高等商業學校長ニ補セララル。

九月十一日 成績考查規程ヲ制定ス。

九月二十九日 垂水町本校敷地ニ於テ地鎮祭アリ本校職員生徒參列シ學友會主催ニテ相撲大會ヲ開催ス。

十月七日 本日ヨリ第一學期試験ヲ施行ス。

十月十四日 生徒心得ヲ制定ス。

十一月三日 初メテ全校生徒ノ各種運動學級對抗競技會ヲ開催ス。

昭和五年

一月九日 本校學則中改正ノ件縣報ニテ告示セララル。

一月二十八日 本校新校舍建築入札ヲ行ヒ大林組ニ參拾貳萬七千圓ニテ落札ス。

二月一日 新校舍建築起工式ヲ舉行ス。

二月十四日 木村文部省實業學務局長來校本校新築敷地ヲ視察セララル。

二月十五日 學友會誌第一號發行ス。

三月十五日 本日ヨリ本校第二回入學試験ヲ施行シ志願者九百六十一名中ヨリ百六十五名ニ入學ヲ許可ス。

四月七日 本校假校舎トシテ阪神急行電氣鐵道株式會社ヨリ向フ一ケ年ノ豫定ニテ關西學院中學部跡ノ建物ヲ借用シ之ニ移轉ス。

四月十一日 第二回入學式ヲ縣立第一神戸商業學校講堂ニ於テ舉行ス。

四月十七日 本校在學生徒父兄有志者間ニ神商會ノ組織成ル。

四月二十九日 本校初年度皆出席者五十二名ヲ表彰ス。

六月三十日 本校職員服務規程ヲ制定ス。

七月二十二日 本校校務分掌規程ヲ制定ス。

十月二十五日 教育勅語謄本ヲ下附セララル。

十月二十六日 神戸港沖ニテ觀艦式ヲ舉行セラレ校長陪觀竝ニ賜饌ニ召サル。

十月三十日 教育勅語煥發四十年記念式ヲ舉行ス。

十一月三日 創立記念運動會ヲ行フ。

十一月十三日 聖上陛下陸軍大演習御統監ノ爲メ當地御通過ニ付職員生徒濰驛ニ於テ奉送迎ヲナス。

十一月二十四日 學年對抗競技會ヲ行ヒ第一學年優勝ス。

十二月十九日 査閲官第四師團司令部附井上少將來校教練査閲アリ。

昭和六年

一月十六日 神商會ノ援助ニヨリ健康相談施設ヲ開始ス。

三月十五日 本日ヨリ本校第三回入學試験ヲ施行シ志願者六百七十名中ヨリ百五十六名ニ入學ヲ許可ス。

四月五日 第三回入學式ヲ縣立第一神戸商業學校講堂ニ於テ舉行ス。

四月二十四日 本日ヨリ三日間ニ涉リ神戸市西灘原田ノ假校舍ヨリ明石郡垂水町高丸陸ノ新校舍ニ移轉ヲ行フ。

六月十四日 生徒父兄有志主催ニテ職員ト父兄トノ懇談會ヲ開催ス。

七月十八日 本校第一回海外旅行團一行教授二名生徒十八名臺灣及南支那旅行ノタメ神戸港ヲ出帆ス。(八月十三日歸着)

九月 校歌ヲ制定ス。

十月二十六日 天皇后兩陛下 御眞影ヲ下賜セラル。

十一月一日 本日ヨリ三日間本校校舍新築落成記念祭ヲ舉行ス。(大運動會、演藝大會、講演大會、展覽會、武道大會、語學音樂及映畫大會)

同日 職員學術研究雜誌「研究ト資料」第一號發行。

十一月二日 修祓式、新築落成式ヲ舉行ス。

十一月二十六日 學年對抗競技會ヲ行ヒ第三學年優勝ス。

十二月十八日 査閲官島少將來校教練査閲アリ。

昭和七年

三月十一日 第一回卒業證書授與式ヲ舉行ス。

三月十五日 本日ヨリ第四回入學試驗ヲ施行シ志願者八百三十五名中ヨリ百五十七名ニ入學ヲ許可ス。

四月十日 第四回入學式ヲ舉行ス。

六月二十一日 檜崎助教授オリンピック大會視察ノタメ渡米九月三日歸校ス。

十月三十日 教育勅語奉讀式ヲ舉行ス。

十一月三日 創立記念運動會及附帶行事(講演會、展覽會、演藝會、語學音樂及映畫會)ヲ行フ。

十一月十六日 本校職員生徒代表者百十名大阪城東練兵場ニ於ケル御親閱式ニ參加ス。

十二月十三日 査閲官島少將來校教練査閲アリ。

十二月十五日 學年對抗競技會ヲ行ヒ第一學年優勝ス。

昭和八年

一月十四日 教授一谷藤一郎在外研究員ヲ命セラレ本日靖國丸ニテ神戸港ヲ出帆ス。

三月十一日 第二回卒業證書授與式ヲ舉行ス。

三月十五日 本日ヨリ三日間第五回入學試驗ヲ施行シ志願者八百七十三名中ヨリ百四十七名ニ入學ヲ許可ス。

四月九日 第五回入學式ヲ舉行ス。

七月二日 父兄有志主催ニテ第二回父兄懇談會ヲ開催ス。

七月二十五日 菊池實業學務局長及全國官公立高等商業學校校長會議出席者ノ一行十數名來校視察セラル。

十一月三日 創立記念運動會及展覽會ヲ開催ス。

十二月八日 査閲官石原少將來校教練査閲アリ。

十二月十一日 學年對抗競技會ヲ開催シ第一學年優勝ス。

十二月十四日 文部省督學官木村善太郎氏本校ヲ視察セラル。

十二月二十三日 皇太子殿下御降誕アラセラレ奉祝休業ス。

昭和九年

一月一日 宮中喪ニ付拜賀式ヲ行ハス。

二月十一日 御眞影竝ニ教育勅語謄本奉護ニ關スル心得ヲ制定ス。

三月十二日 第三回卒業證書授與式ヲ舉行ス。
 三月十五日 本日ヨリ三日間第六回入學試験ヲ施行シ志願者九百十二名中ヨリ百五十六名ニ入學ヲ許可ス。
 四月八日 第六回入學式ヲ舉行ス。
 六月五日 東郷元帥國葬日ニ付授業ヲ廢シ敬弔ノ意ヲ表ス。
 六月二十四日 父兄有志主催ニテ第三回父兄懇談會ヲ開催ス。
 九月二十一日 近畿地方風水害アリ被害甚シ本校運動場ノ西端一部崩壞ス。
 十月二十日 實業教育五十周年記念式ヲ東京ニ於テ舉行セラレ本校伊藤校長及須藤教授表彰セララル。
 十月二十七日 實業教育五十周年兵庫縣記念會ニ於テ記念式ヲ舉ケ本校代表者參列ス。
 十一月五日 學年對抗競技會ヲ行ヒ第二學年優勝ス。
 十一月二十七日 查閱官石原少將來校教練查閱アリ建川第十師團長桑原學務部長等參觀アリ查閱後建川師團長ノ講演アリ

昭和十年

一月二十五日 在外研究員一谷教授歸朝ス。
 三月十一日 本校教授囑託陸軍歩兵中佐正五位勳四等太田節男逝去。
 三月十二日 第四回卒業證書授與式ヲ舉行ス。
 三月十五日 本日ヨリ三日間第七回入學試験ヲ施行シ志願者千九百九名中ヨリ百五十六名ニ入學ヲ許可ス。
 四月七日 入學式ヲ舉行ス。
 四月十八日 有井教授在外研究員ヲ命セラレ本日鹿島丸ニテ神戸港ヲ出帆ス。
 四月二十三日 滿州國皇帝陛下御歸國ニ當リ全校職員生徒須磨及神戸港ニ於テ奉送ス。
 五月二十五日 大楠公六百年記念祭ニ付休業各自參拜ス。

五月二十八日 海軍記念日事業トシテ和田海軍中將ノ講演アリ。
 六月五日 獨逸國ライプチヒ大學體育課助教マールチンパンベル氏來校本校體育狀況ヲ視察ス。
 九月十二日 本日ヨリ三日間本校ニ於テ全國官公立高等商業學校教務主任會議ヲ開催ス。
 十一月一日 熱田神宮遷座式ニ付休業ス。
 十一月三日 創立記念運動會及展覽會ヲ開催ス。
 十一月十六日 小笠原文部省體育技師來校視察セララル。
 十一月二十四日 父兄有志主催ニテ第四回父兄懇談會ヲ開催ス。
 十一月二十八日 第二皇子殿下御降誕アラセラレ奉祝ス。
 十二月二日 學年對抗競技會ヲ開催シ第二學年優勝ス。

昭和十一年

一月二十八日 查閱官和田少將來校教練查閱アリ。
 二月八日 文部省視學委員(作田京都帝大教授)來校視察及講演アリ。
 三月六日 本校學則中改正ノ件縣報ニテ告示セララル。(授業料増額)
 三月十二日 第五回卒業證書授與式ヲ舉行ス。
 三月十五日 本日ヨリ三日間第八回入學試験ヲ施行シ志願者千二百三十一名中ヨリ百六十名ニ入學ヲ許可ス。
 四月五日 第八回入學式ヲ舉行ス。
 五月九日 教授從五位勳六等杉浦舜逝去。
 五月二十四日 教授岡田巧中華民國へ出張ヲ命ゼラレ本日神戸驛ヲ出發ス。

規則

選擇必修科目	三—五	四—六	三—六	六—七
研究				不定時
體操	三	三	三	三
計	三二—三四	三二—三四	三二—三五	三二—三三

研究ハ生徒ヲシテ或學科目ニ關聯セル特殊事項ニ就キ教師指導ノ下ニ研究セシムルモノトス
 選擇必修科目及每週教授時數ハ左ノ通トシ各學年配當時數ノ範圍内ニ於テ時間割ノ許ス限り之ヲ選擇必修セシム
 但シ學校ノ都合ニ依リ其ノ學科目及教授時數ヲ増減シ又ハ履修學年ヲ變更スルコトアルヘシ
 學校ニ於テ必要ト認ムルトキハ各學年ノ選擇必修科目中ヨリ特ニ或數科目ヲ指定シ其ノ中ヨリ必ス一又ハ二科目ヲ選擇
 セシムルコトアルヘシ

第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
英語	英語	英語	英語
第二外國語	第二外國語	第二外國語	第二外國語
自然科學	鐵道	貿易通信	
心理學及論理學	海上運送	經濟事情	
國語及漢文	倉庫	工業要項	
國史	信託	生命保險	
タイプライテング	植民	取引所	
速記術	統計學	工業政策	
一	二	二	二

算	一	哲學概論	二	社會政策	二
珠算	一	社會學	二	教育學	二

第二外國語ハ支那語、獨逸語、佛蘭西語、西班牙語及露西亞語ノ中其一ヲ選擇セシム
 但シ學校ノ都合ニ依リ外國語ノ數ヲ増減スルコトアルヘシ

第三章 學年學期及休業日

第四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チ左ノ二學期トス

第一學期 (自四月一日 至十月十五日)

第二學期 (自十月十六日 至三月三十一日)

第六條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、日曜日
- 二、大祭祝日
- 三、開校記念日
- 四、春季休業 (自四月七日 至四月十七日)
- 五、夏季休業 (自七月十六日 至九月十日)
- 六、冬季休業 (自十二月二十五日 至翌年一月七日)

第四章 入學在學

第七條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メ三十日以内トス

規則

第八條 第一學年ニ入學ヲ許ス者ハ左記各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ選抜ス

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般專門學校ノ入學ニ關シ無試驗檢定ノ指定ヲ受ケタル者

第九條 入學者ノ選抜ハ志願者ノ入學前ニ於ケル學業成績選抜試驗ノ成績及身體検査並人物考査ノ結果ヲ參按シテ之ヲ決定ス

第十條 第八條第一號及第三號ニ掲ケタル學校ニ在學スル者ニシテ當該學校長ヨリ其ノ年三月末ニ卒業スヘシト認メラレタル者ハ同年ニ於ケル本校入學ニ關シ當該學校ノ卒業者ニ準スルコトヲ得但シ豫定期ニ卒業セザリシトキハ其ノ入學ニ關スル手續ハ總テ効力ヲ失フモノトス

第十一條 選抜試驗ハ中學校又ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ商業學校卒業ノ程度ニ於テ之ヲ行ヒ試驗科目ハ生徒募集ノ都度之ヲ公示ス

第十二條 第八條第一號及第三號ニ掲ケタル學校ヲ卒業シタル入學志願者ニシテ在學中最後ノ三學年ヲ通シテ其ノ學年ノ及第者全數ノ約五分ノ一以上ノ席次ニ在リテ卒業成績席次卒業者全數ノ約十分ノ一以上ノ席次ニ在ル者ハ選抜試驗ヲ用ヒスシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十條ノ卒業見込者ニシテ最後ノ三學年中前二學年ノ成績前項ノ規定ニ該當スルトキハ前項ニ準シテ之ヲ取扱フコトヲ得但シ卒業期ニ於テ前項規定ノ成績ヲ得ザリシトキハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第十三條 選抜試驗ヲ用ヒサル入學志願者ニシテ入學ノ許可ヲ得サル場合選抜試驗ヲ受ケムトスル者ハ別ニ出願ヲ要セスシテ選抜試驗ヲ受クルコトヲ得

第十四條 入學志願者ハ生徒募集ノ都度公示スル書式ニ依リ入學願書及其ノ他ノ書類ニ考査料ヲ添ヘ之ヲ學校長ニ差出ス

ヘシ

考査料ハ金五圓トシ納付後何等ノ事由アルモ還付セス

第十五條 入學許可ヲ得タル者ハ其ノ許可ノ日ヨリ二十日以内ニ在學誓書(第一號書式)及戶籍謄本ヲ學校長ニ差出スヘシ

第十六條 退學者退學許可ノ日ヨリ一年以内ニ再入學ヲ出願スルトキハ詮議ノ上原級以下ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 保證人ハ生徒ノ父兄後見人又ハ親族中ノ成年者ニシテ生徒在學中一切ノ事件ニ付完全ニ責務ヲ盡シ得ヘキ者タルヘシ

第十八條 保證人轉籍轉居改氏名若クハ改印等ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ届出ツヘシ

第十九條 保證人死亡若クハ第十七條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ在學誓書ヲ差出スヘシ

第二十條 生徒轉籍改氏名若クハ改印シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ轉籍改氏名ノ届出ニハ戶籍抄本ヲ添付スヘシ

ヘシ

第二十一條 生徒ハ本校制定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ但シ新入學生徒ハ入學ノ日ヨリ一月以内ニ着用スヘシ

第二十二條 生徒ハ學校長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ學校ニ入り又ハ他ノ學校若クハ官廳ニ於ケル各種ノ試驗ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第五章 休學退學

第二十三條 疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニヨリテ三月以上修學スルコト能ハスト思料スルトキハ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出テ許可ヲ得テ休學スルコトヲ得但シ疾病ニ因リ休學セムトスル場合ニ於テハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第二十四條 陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若クハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ期間學校長ノ許可ヲ得テ休學スルコト

トヲ得

- 第二十五條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ休學事由ノ止ミタル翌日ヨリ原學年ノ課程ヲ修メシム
- 前條ニ依リ休學シタル者ハ服役滿期又ハ召集解除後三週間以内ニ於テ原學年ニ復スヘシ
- 第二十六條 休學ハ同一學年ニ於テ一年以内ニ限ル但シ第二十四條ニ依リ休學ハ此ノ限りニアラス
- 第二十七條 生徒退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第二十八條 左ニ掲クル各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ス
 - 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 - 二、學業劣等若クハ身體虛弱ニシテ修學ニ適セスト認メタル者
 - 三、休學ノ許可ヲ得スシテ引續キ一年以上缺席シタル者
 - 四、正當ノ理由ナクシテ引續キ三十日以上缺席シタル者
 - 五、正當ノ理由ナクシテ屢々遅刻缺席シ出席常ナラサル者
 - 六、授業料滯納六十日ニ及フ者

第六章 獎學懲戒

- 第二十九條 人物德操學業健康共ニ優秀ナルモノト認ムル者ハ特待生トナスコトアルヘシ
- 第三十條 特待生ハ每學年之ヲ定ム
- 第三十一條 特待生ニ對シテハ授業料ヲ徵收セス
- 第三十二條 特待生ニシテ學業ヲ怠リ又ハ其ノ體面ヲ損スル行爲アリト認メタルトキハ直ニ特待生タルコトヲ罷ム
- 第三十三條 校規命令又ハ訓育ノ趣旨ニ違背シ生徒ノ本分ニ背戾スル者ハ學校長之ヲ徵戒ス
- 第三十四條 徵戒ハ之ヲ分チテ戒飭、停學、放校ノ三トス

- 第三十五條 戒飭ハ訓戒ヲ加ヘテ將來ヲ戒メ停學ハ一定期間特別監督ノ下ニ反省セシメ放校ハ學校ヨリ放逐ス

第七章 修業及卒業

- 第三十六條 各學年ノ課程ノ修了ハ學業成績及勤惰ヲ考査シテ之ヲ定ム
- 第三十七條 未修了ノ學科目多クシテ次學年ノ課程ヲ履修スルニ不適當ト認メタル者ハ原學年ノ課程ヲ再修セシム
- 第三十八條 未修了ノ學科目ニ就テハ在學中又ハ第三學年次ノ考査修了後滿二年以内ニ再考査ヲ受クル事ヲ得
- 第三十九條 全部ノ課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證書(第二號書式)ヲ授與ス
- 第四十條 各學年ノ課程ヲ履修セルモ前條ニ該當セサル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第八章 授業料

- 第四十一條 授業料ハ一學年金八拾圓トシ左ノ三期ニ之ヲ分納セシム
 - 第一期 自七月 至九月 金參拾圓
 - 第二期 自九月 至十二月 金參拾圓
 - 第三期 自一月 至三月 金貳拾圓
- 第四十二條 授業料ハ學校長ノ定ムル期日ニ納付スヘシ
- 第四十三條 授業料ハ一旦納付ノ後ハ如何ナル事由アルトモ之ヲ還付セス
- 第四十四條 休學ノ許可ヲ得タル生徒ヨリハ休學期間中授業料ヲ徵收セス但シ授業料徵收期日前ニ休學又ハ退學シタルトキハ其ノ月ノ授業料ハ金七圓トシ指定ノ日ニ於テ之ヲ納付スヘシ
- 第四十五條 左ニ掲クル各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ事由ノ生シタル月ヨリ一箇月金七圓ノ割ヲ以テ次ノ授業料納付期ノ前月迄ノ授業料ヲ指定期日內ニ納付スヘシ但シ第二號ニ該當スル者ニシテ既ニ其ノ期ノ授業料納付済ノモノハ此ノ限ニ

アラス

一、特待生タルコトヲ罷メラレタル者

二、休學ノ事故止ミ就學シタル者

第四十六條 定日ニ授業料ヲ納付セサルトキハ本人ニ之ヲ催告シ猶納付セサルトキハ保證人ニ催告ス前項ノ催告ヲ受ケ猶納付セサルトキハ第二十八條第六號ニ依リ處分ス

附 則

本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ學校長之ヲ定ム

在學誓書(第一號書式)

在 學 誓 書

私儀今般御校ニ入學御許可相成候ニ就テハ在學中校規命令等堅ク相守ルヘキハ勿論御校ノ學籍ヲ脱シ候後ト雖在學中ニ係ル一切ノ義務ハ必ス履行可致此段誓約候也

本 籍

族 籍

現 住 所

昭和 年 月 日

何 某 印
年 月 日生

右 今般御校ニ入學許可相成候ニ就テハ御校在學中監督保護ノ責ニ任スヘキハ勿論御校ノ學籍ヲ脱シ候後ト雖本人在學中ニ係ル一切ノ義務ハ必ス履行可爲致萬一違背候節ハ拙者ニ於テ一切引受ケ可申此段保證候也

昭和 年 月 日

保 證 人 何

年 月 日生 某 印

兵庫縣立神戸高等商業學校校長 殿

卒業證書(第二號書式)

卒 業 證 書

族 籍

何

年 月 日生 某

右ノ者本校所定ノ課程ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

昭和 年 月 日

兵庫縣立神戸高等商業學校長 學位動功 學位爵

何 某 印

○細則

一、生徒心得

- 第一條 本校生徒タル者ハ常ニ校規ヲ守リ師訓ニ從ヒ左ノ綱領ヲ遵守スヘシ
 - 一、學業ヲ勵ミ智徳ヲ磨キ人格ノ陶冶ニ努ムヘシ
 - 二、體力ヲ練リ節制ヲ守リ心身ノ強健ヲ圖ルヘシ
 - 三、質實ヲ旨トシ勤儉力行ノ美風ヲ養フヘシ
 - 四、禮節ヲ重シ信義ヲ敦ウシ學止常ニ端正ナルヘシ
 - 五、國體ヲ尊ヒ公益ヲ念ヒ健全ナル國民ノ基幹タルヲ期スヘシ
- 第二條 讀書及娛樂ハ常ニ其ノ選擇ニ注意シ智徳又ハ趣味ノ向上ニ資シ品性ノ修養ニ益セムコトヲ心掛クヘシ
- 第三條 生徒ノ品位ヲ瀆シ校風ヲ紊ス虞アル場所ニ立入ルコトヲ避クヘシ
- 第四條 不都合ノ行爲アリタルトキハ學則ニ依ル懲戒ノ外ニ相當ノ制裁ヲナスコトアルヘシ
 - 懲戒又ハ其ノ他ノ制裁ヲ受ケタル者ニシテ改過ノ實明カナルトキハ懲戒録ヨリ之ヲ抹消スルコトアルヘシ
- 第五條 各學年級及各組ニ主任一名ヲ置キ教職員之ニ當ル
 - 級主任及組主任ハ生徒ト學校トノ親密ナル連絡ヲ計リ其ノ級ノ指導訓育ニ任ス
- 第六條 各學年級ノ各組ニ級委員二名ヲ置キ級ノ事務ヲ取扱ハシム
 - 級委員ハ各學期ノ初メニ記名投票ニ依リ生徒中ヨリ四名ノ候補者ヲ互選セシメ校長之ヲ命ス任期ハ一學期間トス
 - 但シ第一學年第一學期ニ限り互選ニ依ラス校長之ヲ命ス
- 第七條 學校ノ内外ヲ問ハス本校職員及ヒ生徒ニ對シ互ニ敬禮ヲナスヘシ

授業ノ始終ニハ教師ニ對シ敬禮スヘシ

授業中ハ勿論放課時ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧噪粗野ノ言動アルヘカラス

第八條 校内ニ於テハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食、喫煙スヘカラス

第九條 生徒ニ對スル學校ノ告示ハ之ヲ一定ノ場所ニ揭示ス生徒ハ常ニ之ニ注意スヘシ

學校ノ告示ハ揭示シタル日ヨリ一般ニ之ヲ了知シタルモノト看做ス

生徒カ揭示ヲナサムトスルトキハ豫メ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 諸願書及屆書ハ總テ校長宛トシ生徒課ニ提出スヘシ

第十一條 缺席及缺課ニ關シテハ左ノ通届出ヲ勵行スヘシ

一、三日以内缺席又ハ缺課セムトスルトキハ豫メ（豫知シ難カリシトキハ事後二日以内ニ）其ノ旨届出ツヘシ
但シ場合ニ依リ保證人ノ連署ヲ命スルコトアルヘシ

二、缺席又ハ缺課三日以上ニ亙ルトキハ豫メ（豫知シ難カリシトキハ最初ノ日ヨリ七日以内ニ）保證人連署ヲ以テ届出ツヘシ

三、病氣ニヨリ缺席又ハ缺課七日以上ニ亙ルトキハ豫メ（豫知シ難カリシトキハ最初ノ日ヨリ十日以内ニ）醫師ノ診斷書ヲ添

ヘ保證人連署ヲ以テ届出ツヘシ

四、體操及教練ノ見學引續キ七回以上ニ及フトキ及野外演習又ハ野營ニ缺席セムトスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ（豫知シ難カリシトキハ事後三日以内ニ）届出ツヘシ

五、試験ニ缺席シタル者ニシテ學業成績考査規程第八條ニ依ル特別ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ同條ニ依リ遲滯ナク其ノ旨願出ツヘシ

六、左ノ事由ニ依リ缺席又ハ缺課ヲナシ届出ヲ完了シタルトキハ之ヲ缺席日數又ハ缺課時數ニ算入セス

1. 父母ノ喪ニアリタトキ

七日及往復日數

- 2. 祖父母、兄弟、姉妹ノ喪ニアリタルトキ 五日及往復日數
- 3. 其ノ他近親ノ服忌 三日及往復日數
- 4. 父母、祖父母、兄弟、姉妹其ノ他近親ノ法要 當日及往復日數
- 5. 徴兵検査ノ受檢ニ要シタル日數
- 6. 學校ヨリ出張等ヲ命シタル日數又ハ時數

第十二條 服装ニ關シテハ左ノ通心得ヘシ

- 一、登校ノ際及本校生徒トシテ旅行スル場合ハ制服制帽及制靴ヲ着用スヘシ
但シ稍異式ノモノト雖モ事情ニ依リ生徒課ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ代用スルコトヲ得
- 二、病氣其ノ他ノ事故ニヨリ登校ノ際和服ヲ着用セムトスルトキハ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ
- 三、和服ヲ着用シテ外出スルトキハ制帽及袴ヲ着用スヘシ
- 四、體操及教練ノ際ハ必ス體操服ヲ着用スヘシ

第十三條 校室又ハ校具ヲ使用セムトスルトキハ生徒課ニ願出ツヘシ

建物、器具、圖書等ハ常ニ良ク保存整頓ニ留意スヘシ若シ毀損亡失シタルトキハ直チニ其ノ旨生徒課ニ届出テ場合ニ依リ之ヲ辨償スヘシ

第十四條 校ノ内外ヲハス左ノ行爲ヲナサムトスルトキハ豫メ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ

- 一、集會ヲ催サムトスルトキ
- 二、講演又ハ宣傳等ヲナサムトスルトキ
- 三、印刷物ヲ配布セムトスルトキ
- 四、團體ヲ組織シ又ハ他ノ團體ニ加入セムトスルトキ

五、各種ノ業務ニ從事セムトスルトキ

六、金錢ヲ募集セムトスルトキ

七、他ノ學校ヘ入學又ハ其ノ他ノ願書ヲ提出セムトスルトキ

第十五條 各種ノ證明書又ハ割引證ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ生徒課ニ願出ツヘシ

第十六條 毎學年ノ始メ十日以内ニ宿所ヲ生徒課ニ届出ツヘシ

轉宿シタルトキハ直チニ新住所ヲ届出ツヘシ

轉籍、身分ノ異動、轉居等ノ場合ハ遲滞ナク届出ツヘシ

第十七條 家族同居人又ハ居所附近ニ劇性傳染病患者發生シタルトキハ直チニ届出テ生徒課ノ指示ヲ受クヘシ

二、生徒服装規程

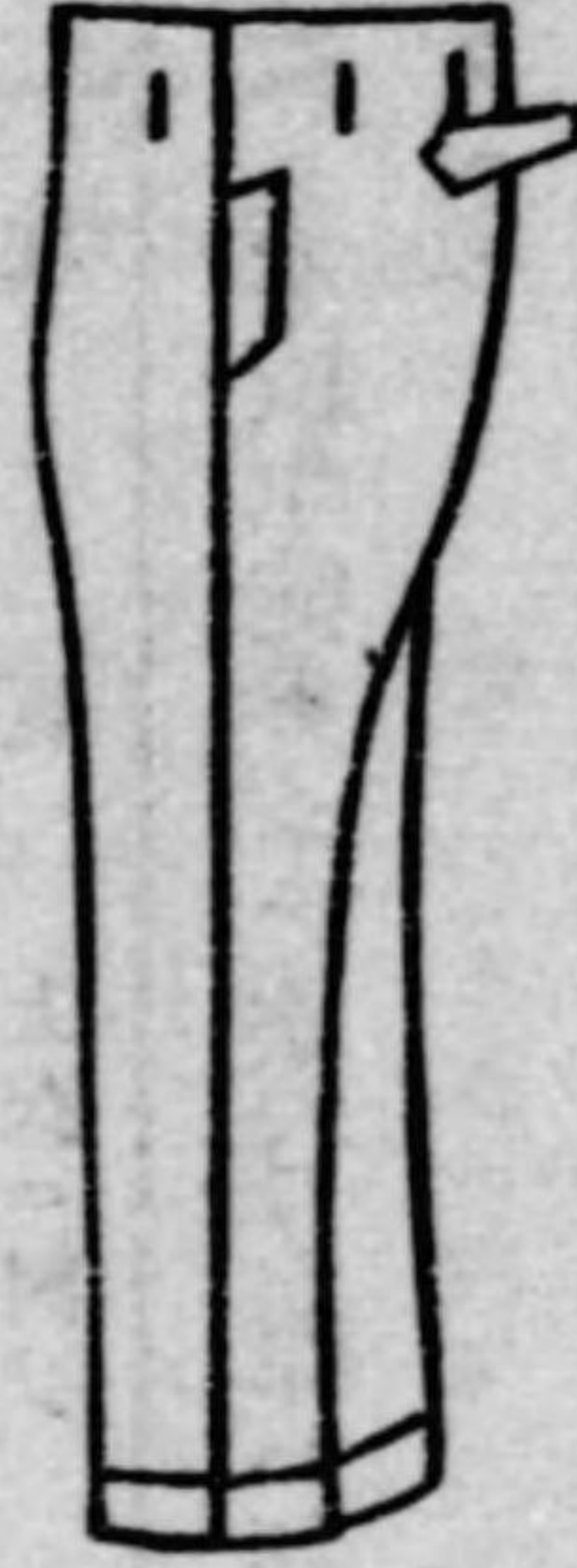
第一條 生徒ノ服制左ノ如シ

制	帽			制		
	冬	略	正	前	地	制
制式	前章	帶布	制式	前章	地質	制式
圖ノ如シ	正帽前章ニ同ジ(但シ小形ナルモノヲ用ヒ帶布ノ側面ニ附ス)	白麥稈	普通形ニシテ圖ノ如シ	臺地金色、文字銀色圖ノ如シ	黑絨	海軍形(黑毛織ノ帶布ヲ附ス)圖ノ如シ
		黑無地				
		六月一日ヨリ九月三十日迄着用スル事ヲ得但シ儀式體操教練ノ場合ハ必ズ正帽ヲ用フベシ				

上衣正面



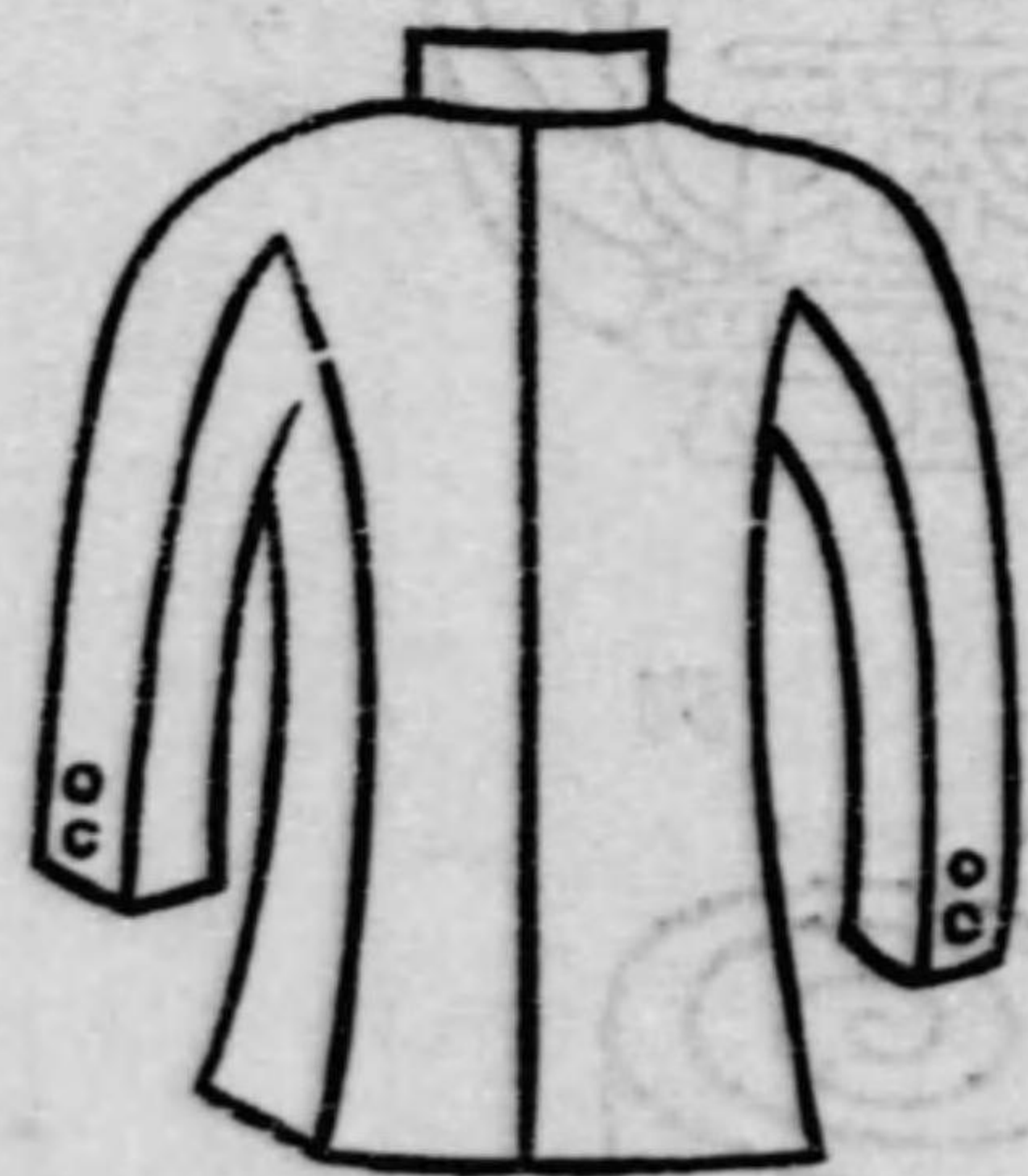
袴



外套



上衣背面



上衣鈕



三、學業成績考查規程

第一條 學業成績ヲ分チテ學期成績、學年成績及卒業成績ノ三トス

學期成績ハ學期試驗評點ト平常ノ業績及勤惰トヲ參酌シテ之ヲ定ム

第二條 學年成績ハ學期成績評點ノ和ヲ二除シテ之ヲ定ム、但シ一ノ學期ヲ以テ終了スル學科目ニアリテハ學期成績ヲ以テ學年成績ト看做ス

卒業成績ハ進級ニ合格シタル各學年ニ於ケル總學科目成績ノ學年平均評點ノ總和ニ依テ之ヲ定ム

第三條 學業成績ハ評點ヲ以テ表ハシ各學科目百點ヲ以テ滿點トス

成績評點ハ左ノ評語ヲ以テ之ヲ表示ス

甲 (八十點以上) 乙 (六十點以上)

丙 (五十點以上) 丁 (五十點未滿)

第四條 或ル學科目ハ之ヲ數分科ニ分チ各分科ハ成績考查ニ當リ之ヲ獨立ノ學科目ト看做ス
分科ヲ設クル學科目及分科數ハ每學年之ヲ定ム

第五條 學期試驗ハ每學期ノ終リニ於テ期日ヲ定メ之ヲ行フ
但シ特別ノ必要アルトキハ他ノ時期ニ於テ行フコトアルヘシ

第六條 或學科目ハ學期試驗ヲ行ハス平常ノ業績及勤惰ヲ考查シテ其ノ成績ヲ定ムルコトアルヘシ
學期試驗ヲ行ハサル學科目ハ每學年之ヲ定ム

第七條 疾病其他已ムヲ得サル事由ニヨリ試驗ニ缺席シタル者ニハ平常ノ業績勤惰及出席狀況ヲ參酌シ左ノ取扱ヲナスコトアルヘシ

一、當該學科目ノ他ノ學期ニ於ケル評點ノ七割以內ヲ與ヘ之ヲ以テ其學期成績評點ト看做ス

- 二、一學期ヲ以テ終了スル學科目ニ就テハ追試験ヲ行フ
追試験ハ次學期授業開始後一ヶ月以内ニ之ヲ行フ
追試験ノ評點ハ其ノ得點ノ八割以内ヲ與ヘテ定ム
- 三、兵役ニ關スル事由ニ因テ試験ニ缺席シタル者ニハ前二號ニ依ラス特別ノ取扱ヲナスコトアルヘシ
- 第八條 前條ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ試験缺席ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ遲滯ナク其旨届出ツヘシ病氣ニ因ル場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
右ノ願出ヲナササル者ハ前條ノ取扱ヲ受クルコトヲ得ス
- 第九條 各學科ノ授業時數ニ對シ出席時數ノ割合六割ニ滿タサル者ハ其學科ノ學期試験ヲ受クルコトヲ許サス
但シ特別ノ事情アリト認メタル場合ニ限り特ニ受験ヲ許スコトアルヘシ
- 第十條 各學科目ノ學年成績評點五十點以上ニシテ總學科目ノ學年成績評點ノ和ヲ學科目數ヲ以テ除シタル平均評點六十點以上ヲ得タル者ヲ以テ當該學年課程ヲ修了シタルモノトシ進級又ハ卒業セシメ然ラサル者ハ原學年級ニ留ム
- 第十一條 學年成績評點五十點未滿ノ學科目ハ未修了ノモノトシ未修了ノ學科目三科目以内ニシテ總學科目平均評點六十點以上ヲ得タル者ハ詮議ノ上假ニ進級ヲ許シ一定期日ニ於テ未修了學科目ノ再試験ヲ行ヒ其ノ成績合格スルニ及ヒテ進級セシムルコトアルヘシ
- 再試験學科目ノ成績ハ當初ノ學年成績評點ト再試験ノ得點ヲ二倍シタルモノトノ和ヲ三除シタルモノニ依テ之ヲ定ム

○事務規程

一、職員服務規程

- 第一條 專任ノ職員出勤シタルトキハ校長ノ定ムル特別ノ場合ノ外ハ必ス出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第二條 病氣其他ノ事故ニヨリ缺勤又ハ遲刻セムトスルトキハ豫メ届出ツヘシ
病氣缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ
- 第三條 執務時間中病氣其ノ他ノ事故ニヨリ早退セムトスルトキハ其旨ヲ届出ツヘシ
- 第四條 親族ノ喪ニ服スルトキハ其親族トノ續柄及死亡ノ日時ヲ記載シテ届出ツヘシ
父母ノ祭日ニ當リ賜暇ヲ受ケムトスルトキハ前日迄ニ其旨ヲ届出ツヘシ
- 第五條 公務ノ都合ニ依リ必要アルトキハ執務時間外又ハ休日ト雖モ服務スヘシ
休日ニ執務スルトキハ登校及退出ノ際其旨ヲ當直ニ通告スヘシ
- 第六條 歸省、墓參、轉地療養其他私事旅行ヲナサムトスルトキハ其事由及所要日數ヲ記載シ願出ツヘシ休暇中ニ於ケル場合モ又同シ
- 第七條 出張ヲ命セラレタルトキハ出發歸任共ニ届出ヲ爲シ且遲滯ナク文書又ハ口頭ヲ以テ復命スヘシ
出張中豫定ノ日限ニ歸着スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ具シ校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 他ノ事業ノ囑託ニ應セムトスルトキハ豫メ校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九條 本校ヲ經由セスシテ辭令ヲ受ケ其他履歷ニ關係アル事項アリタルトキハ其都度之ヲ届出ツヘシ
- 第十條 新任者ハ直ニ住所届ヲ差出スヘシ其後ノ住所異動アリタルトキモ亦同シ
- 第十一條 轉免又ハ休職ヲ命セラレタルトキハ擔任事務及取扱書類其他所管物品ヲ後任者又ハ校長ノ指名シタル職員ニ引

繼ヲナスヘシ

第十二條 公文書類ハ校長ノ許可ナクシテ猥リニ之ヲ關係者外ニ示シ又ハ謄寫セシムヘカラス

第十三條 校長名若クハ學校名ヲ以テスル文書ハ校長ニ稟議シ決裁ヲ受ケタル後ニアラサレハ發送スルコトヲ得ス

但シ豫メ校長ノ承認ヲ得タルモノハ事後之ヲ校長ニ報告スヘシ

第十四條 校内ノ出火近火其他變災アルトキハ速ニ登校シテ警備ニ當リ災害防止ニ努ムヘシ

二、校務分掌規程

第一條 校務分掌ノ爲メ教務課、生徒課、人事課、事務課及圖書課ヲ置キ其ノ他必要ニ應シ研究室、標本室等ノ特別室ヲ設ク

第二條 教務課、生徒課、人事課及圖書課ニ課長ヲ置キ各特別室ニ室主任ヲ置ク

課長及室主任ノ任期ハ二年トス但シ必要ニ應シ伸縮スルコトアルヘシ

第三條 生徒課ニ生徒係若干名ヲ置ク

第四條 人事課ニ主事及係員若干名ヲ置ク

第五條 事務課ニ庶務係及會計係ヲ置キ各係ニ系主任ヲ置ク

第六條 各課、係又ハ室ノ分掌事務ニシテ他ノ課、係又ハ室ノ事務ニ關係アルヘキ事項ニ就テハ關係者協議ノ上之ヲ處理

シ常ニ相互ノ連絡ニ努ムヘシ

第七條 事務ノ所屬明カナラサルモノハ校長ノ指揮ニ依ル

第八條 教務課ハ左ノ事務ヲ分掌ス

一、教務ニ係ル文書ノ起草編纂及保管

一、學科課程教科書ニ關スル事

一、授業時間配當ニ關スル事

一、授業及休業ニ關スル事

一、試験及成績ニ關スル事

一、教室及教具ニ關スル事

一、生徒募集、入學及學級編成ニ關スル事

一、修學旅行及見學等ニ關スル事

一、職員會議ニ關スル事

一、教員ノ出缺勤ニ關スル事

一、教務上ノ統計ニ關スル事

一、參觀人取扱ニ關スル事

一、其他教務ニ關スル一切ノ事務

第九條 生徒課ハ左ノ事務ヲ分掌ス

一、生徒課ニ關スル文書ノ起草編纂及保管

一、生徒ノ入學及學籍ニ關スル事

一、生徒ノ監督及風紀ニ關スル事

一、生徒ノ勤怠及賞罰ニ關スル事

一、生徒ノ健康衛生及身體検査ニ關スル事

一、學資貸給其他生徒ノ生活ニ便スル福利施設ニ關スル事

一、生徒ノ兵役ニ關スル事

一、生徒ノ願、届及船車割引證等ニ關スル事

事務規程

- 一、儀式ニ關スル事
- 一、學友會ノ監督ニ關スル事
- 一、銃器火藥及警備ニ關スル事
- 一、生徒ノ統計ニ關スル事
- 一、卒業生ニ關スル事
- 一、其他生徒ニ關スル一切ノ事務

第十條 人事課ハ左ノ事務ヲ分掌ス

生徒ノ在學中及卒業後ニ於ケル各自ノ身上ニ關シ補導援助ヲナスコト

第十一條 事務課ハ左ノ事務ヲ分掌ス

庶務係

- 一、庶務ニ關スル文書ノ起案編纂及保管
- 一、御眞影及勅語謄本ノ管守竝ニ儀式ニ關スル事
- 一、職印、校印ノ管守ニ關スル事
- 一、職員ノ進退身分服務出張及諸願届ニ關スル事
- 一、職員ノ出勤簿ノ整理
- 一、法令規則類ノ整理及保管
- 一、文書ノ收受發送及保管
- 一、學校一覽、年報、官報、日誌、證書及記録ニ關スル事
- 一、宿直、日直及校内外ノ警備竝ニ衛生ニ關スル事

- 一、傭人ノ進退及取締ニ關スル事
- 一、外來者ノ應接
- 一、他課ノ所管ニ屬セサル一切ノ事務

會計係

- 一、會計ニ關スル文書ノ起案編纂及帳簿ノ整理保存
- 一、豫算決算ニ關スル事
- 一、財産ノ保管ニ關スル事
- 一、金錢出納ニ關スル事
- 一、營繕ニ關スル事
- 一、物品ノ購入出納保管及處分ニ關スル事
- 一、授業料及手数料ニ關スル事
- 一、寄附ノ收受ニ關スル事
- 一、給水電氣瓦斯暖房防火器及通信機等ニ關スル事
- 一、其他會計ニ關スル一切ノ事務

第十二條 圖書課ハ左ノ事務ヲ分掌ス

- 一、圖書ニ關スル文書ノ起案編纂及保管
- 一、購入圖書及新聞雜誌年報一覽等ノ選擇註文竝ニ整理保管
- 一、圖書印等ノ管守
- 一、書庫及閱覽室ノ整理竝ニ取締

事務規程

- 一、圖書類ノ出納及貸出ニ關スル事
 - 二、寄贈及委託圖書ニ關スル事
 - 一、圖書目錄ノ編纂及保管
 - 一、其他圖書ニ關スル一切ノ事務
- 第十三條 特別室ハ各左記ノ事務ヲ分掌ス

研究室

- 一、特定ノ學術上ノ研究調査ニ關シ必要ナル圖書資料ノ蒐集整理及保存利用ニ關スル事
 - 一、前項ノ研究調査ニ關聯シ必要ナル一切ノ事務
- 標本室

- 一、商品見本及理化學用具標本模型藥品等ニ關スル文書ノ起案編纂及保管
- 一、前項物品ノ蒐集整理及保存利用ニ關スル事
- 一、其他商品及理化學用品ニ關スル一切ノ事務

三、處務規程

- 第一條 校長事故アルトキハ事務ニ關シテハ主務課長之ヲ代理ス
但シ重要ナル事項ニシテ急遽處理ヲ要セサルモノハ校長ノ決裁ヲ經テ施行スルモノトス
- 第二條 事務ノ性質ニ依リテハ臨時若クハ常設ノ委員ヲ設ケテ之ヲ處理セシムルコトアルヘシ
- 第三條 訓令、內訓、達、通牒、指令等ニシテ例規トナルヘキモノハ其原本ヲ庶務係ニ於テ編綴保存スヘシ
- 第四條 本校ニ到着セル封書、書籍、其他ノ封緘物件ハ公用ト私用トヲ問ハス庶務係又ハ當直員ニ於テ到着物受付簿ニ登錄ノ上當該課員又ハ宛名人ニ遲滯ナク配付シ書留郵便物及之ニ類スル物ニ就テハ受領印ヲ徵スヘシ

生徒宛ノ郵便物等ハ總テ生徒課ニ配付スヘシ

- 第五條 公文書ハ親展文書ヲ除キ庶務係ニ於テ之ヲ收受シ文書件名簿ニ登記シ該文書ニ番號及月日ヲ記入シタル上速カニ主務課ニ配付シ受領印ヲ徵スヘシ

校長宛親展文書ハ庶務係ヨリ校長ニ進達シ下附セラレタルモノハ前項ニ準シ手續ヲナスヘシ
二課以上ニ關係アル文書ハ其重キニ從ヒ配付スヘシ
電報ハ之ニ譯文ヲ附シ第一項ノ手續ヲナスヘシ

第六條 左ノ文書ハ主務課ニ於テ直接收受スヘシ

- 一、各課宛親展文書
- 二、生徒ヨリ差出ス願届類
- 三、入學願書
- 四、其他校長ノ指定シタル書類

第七條 各課ニ於テ交付ヲ受ケタル文書ニシテ處分ヲ要スルモノハ遲滯ナク處分案ヲ起草シ其他ニ關係アルモノハ合議ノ上校長ニ稟議スヘシ

文書ニ餘白アルトキハ稟議用紙ヲ用ヒス餘白ニ處分案ヲ記載スルコトヲ得

第八條 決裁済ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ各主務課又ハ庶務係ニ於テ淨書ノ上發送ノ手續ヲ執ルヘシ

第九條 發送文書ハ特別ノ場合ヲ除キ校長名又ハ學校名ヲ用ヒ左ノ例ニ依リ番號ヲ付シ主務課ニ於テ文書發送簿ニ登錄スヘシ

神高商教發 神高商生發 神高商庶發 神高商計發 神高商圖發

第十條 庶務係ニ於テ郵便電信ヲ發送シタルトキハ其月日、發送先、料金(用件)ヲ登記スヘシ

第十一條 回覽ヲ要スル文書ハ庶務係ニ於テ之ヲ回覽ニ供シ校長關係各課長各主任及職員ニ及ホシ回覽濟ノ上ハ庶務係ニ於テ之ヲ主務課ヘ返付スヘシ

第十二條 完結文書ハ主務課ニ於テ同種事件ニ關スルモノヲ取纏メテ整理シ處理完結ノ月日ヲ逐ヒ卷首ニ索引ヲ付スヘシ
完結文書ハ別ニ定ムル期間主務課ニ於テ保存スヘシ

第十三條 特殊ノ取扱ヲ要スル文書ハ其上部餘白ニ左ノ種別ヲ朱記シ別冊トシテ整理スヘシ

一、例規トナルヘキモノ
「例規」

二、秘密ニ涉ルモノ
「秘」

四、會議

第一條 校務上ノ打合セヲナシ又ハ校長ノ諮問事項ヲ審議スル爲メ必要ニ應シ職員會又ハ教授會ヲ開ク

第二條 職員會ニ出席スヘキ職員ハ會議ノ目的タル事項ニ依リ開會ノ都度校長之ヲ定ム

第三條 教授會ハ教授ヲ以テ會員トス

但シ時宜ニ依リ校長ハ他ノ職員ヲ之ニ列席セシメ又ハ之ニ出席スヘキ會員ヲ指定スルコトアルヘシ

第四條 職員會及教授會ハ校長之ヲ召集シ校長又ハ校長カ代理ヲ命シタル職員其ノ座長トナル

五、圖書規程

(一) 總則

第一條 圖書ハ凡テ書庫内ニ收メ圖書課之ヲ管理ス

第二條 圖書ヲ寄託セントスル者アルトキハ其ノ需メニ應スルコトアルヘシ

寄託圖書ニ關シテハ寄託者ヨリ特ニ指定セル條件ニ從フノ外凡テ本校圖書ト同一ノ取扱ヲナス

第三條 圖書又ハ圖書購入資金ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ之ヲ寄贈受付簿ニ登錄シ圖書ニハ寄贈者ノ氏名ヲ記入ス
第四條 圖書ヲ別チテ左ノ二種トス

一、普通圖書

二、特別圖書

(二) 購入

第五條 圖書購入ノ請求ヲナシ得ル者ハ教職員トス

第六條 圖書購入請求書ハ圖書購入請求票ニ必要ノ事項ヲ記入シ圖書課長ニ差出スヘシ

第七條 圖書課長ハ豫算其他ノ調査ヲナシ校長ノ承認ヲ受ケ直チニ購入ノ手續ヲナスヘシ

(三) 整理

第八條 圖書ヲ購入シタルトキハ直ニ圖書原簿ニ登錄シ閱覽ニ必要ナル手續ヲナスヘシ

第九條 圖書ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ第三條及前條ノ手續ヲナスヘシ

但シ小冊子及之ニ類スルモノハ圖書原簿ニ登錄スルコトナク閱覽ニ供スル手續ヲナスコトヲ得

第十條 新聞雜紙ノ保存ニ關シテハ永久當分ノ二種ニ區別シ永久保存ノモノハ製本後圖書原簿ニ登錄スヘシ

第十一條 整理前ノ圖書ハ之ヲ貸出又ハ閱覽セシムルコトヲ得ス

但シ特ニ校長ノ許可アリタル場合ハコノ限ニアラス

第十二條 圖書ノ點檢ハ隨時之ヲ行フ

(四) 檢索

第十三條 圖書課員ノ外圖書ノ出納ヲナスコトヲ得ス

第十四條 左ニ掲クル者ハ書庫内ニ入りテ圖書ノ檢索ヲ爲スコトヲ得

一、教職員

二、特ニ校長ノ許可ヲ得タル者

第十五條 特別圖書ノ検索ハ其閱覽ヲ許可セラレタル者ニ限り圖書課員立會ノ上之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 圖書検索者ハ書庫内ニ於テ圖書管理上最善ノ注意ヲ拂フヘシ

(五) 貸出

第十七條 圖書ヲ借受クルモノハ定式ノ借用證用紙ニ所定ノ事項ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第十八條 各課及特別室ニ於テ教授上又ハ執務上必要ナル圖書ハ校長ノ許可ヲ受ケタル冊數ニ限り借受クルコトヲ得

各課長又ハ室主任ハ其ノ保管ノ責ニ任ス

第十九條 普通圖書ハ左ノ制限内ニ於テ借受クルコトヲ得

冊數	期間
一、教職員	
一、特ニ校長ノ許可ヲ受ケタル者	三十冊
二、特別圖書ハ教職員ニ限り十日間借受クルコトヲ得	六ヶ月間
但シ特ニ校長ノ許可ヲ得タル場合ハ十日以上ニ亘ルコトヲ得	一ヶ月間

第二十條 特別圖書ハ教職員ニ限り十日間借受クルコトヲ得

但シ特ニ校長ノ許可ヲ得タル場合ハ十日以上ニ亘ルコトヲ得

第二十一條 借受ケタル圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第二十二條 借受ケタル圖書ハ借用者其ノ保存ノ責ニ任シ紛失又ハ汚損シタルトキハ圖書又ハ代價ヲ以テ辨償セシメ若クハ之ヲ修繕セシムルコトアルヘシ

第二十三條 貸出期限内ト雖モ必要アルトキハ圖書ヲ臨時返納セシメ又ハ之ヲ點檢スルコトアルヘシ

(六) 閱覽

第二十四條 閱覽室ハ休日ノ外毎日午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄之ヲ開ク

但シ時宜ニヨリ變更スルコトアルヘシ

第二十五條 圖書ヲ閱覽セントスルモノハ定式ノ閱覽證用紙ニ所定ノ事項ヲ記入ノ上係員ヨリ借受ケ閱覽終リタルトキハ直チニ返納スヘシ

閱覽圖書ハ三冊ヲ限り同時ニ借受クルコトヲ得

第二十六條 閱覽圖書ハ閱覽室外ニ携出スルコトヲ許サス

第二十七條 借受ケタル圖書ヲ紛失又ハ汚損シタルトキハ圖書又ハ代價ヲ以テ辨償セシメ若クハ修繕セシムルコトアルヘシ

六、警備規程

第一條 専任職員ノ中ニ警備主任ヲ置キ各種警備ニ關スル事務ヲ主管セシム

第二條 非常用具及非常設備ハ毎月少クトモ一回警備主任ニ於テ點檢シ尙藥品等ニテ交換ヲ要スルモノハ次回交換月日ヲ記載貼付スヘシ

第三條 非常持出箱ニハ「非常持出」ト標記スヘシ

校内非常用具、非常設備及非常持出箱ノ所在ヲ當直室並ニ事務室ニ揭示シ置クヘシ

第四條 電燈及瓦斯ノ裝置機能等ニハ常ニ注意シ警備主任ハ庶務係及會計係立會ノ上毎年少クトモ一回技術者ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ

第五條 當直室ニハ消防署及警察署ノ電話番號ヲ揭示シ置クヘシ

第六條 校内ノ出火、近火其ノ他非常事變發生ノ場合ハ發見者ハ直ニ事務課又ハ當直員ニ急報スヘシ

第七條 執務時間外ニ於テ前條ノ事變ノ爲大事ニ至ル虞アリト認メタルトキ當直員及現在員ハ左ノ概目ニ從ヒ非常手配ヲ

爲スト同時ニ學校長、各課長各主任其ノ他ノ職員ニ急報スヘシ

- 一、御眞影竝ニ勅語謄本ノ奉護
 - 二、消防署竝ニ警察署トノ連絡
 - 三、應急災害防止方法ノ實施
 - 四、非常持出箱及其ノ他ノ文書竝ニ物品ノ搬出
 - 五、構内出入口及搬出物ノ警戒
- 第八條 執務時間外ニ於テ前條ノ急報ニ接シ又ハ事變ヲ聞知シタル職員生徒ハ直ニ登校シテ非常手配中ニ參加シ災害防止ニ努ムヘシ

七、當直規程

- 第一條 判任官待遇職員及之ニ準スル專任職員ハ一名宛輪番ヲ以テ當直勤務ヲ爲スヘシ
當直ノ順番ハ庶務係ニ於テ之ヲ定メ少クトモ三日以前ニ本人ニ通知スヘシ
- 第二條 當直勤務時間ハ宿直ニアリテハ午後四時ヨリ翌日ノ午前八時迄トシ日直ニアリテハ午前八時ヨリ午後四時迄トス
但シ保管物竝ニ收受物ノ引繼ヲ了スルニ非サレハ勤務ヲ離ル、コトヲ得ス
- 第三條 左ノ期間中ハ當直ヲ免除ス
- 一、出張ノ日ヨリ歸任ノ日マテ
但シ午前中ニ出發ヲ要スルトキハ其ノ前日ノ宿直ヲ免除ス
 - 二、忌引中
 - 三、父母ノ看病ノ爲メ請暇中
 - 四、徴兵検査召集點呼等ニ應召中及其ノ前日

五、新任者着任後七日間

六、特別ノ理由ニ基キ指定セラレタル期間

第四條 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ當直ヲ缺勤シタルトキハ次番者ヲ繰上ケ勤務セシム
前項缺勤者ハ後日之ヲ補勤セシム但シ病氣缺勤七日以上ニ亘ルトキハ此ノ限ニ非ス

第五條 當直中ハ左ノ帳簿及物品ヲ備ヘ置クヘシ

- 一、宿直日誌
- 二、職員及生徒住所録
- 三、各室鎖鑰
- 四、文書及物品ノ收受簿及發送簿
- 五、郵便切手端書及同受拂簿
- 六、電信用語符號表
- 七、文書及物品容器

第六條 當直者ハ左ノ各項ノ事務ヲ執行スヘシ

- 一、校僕ヲ指揮監督シテ校内ノ一般警備特ニ火元ノ取締ニ注意シ夜間ハ午後八時以後ニ於テ一回以上校僕ヲ伴ヒ校舍内外ヲ巡視シテ異狀ノ有無ヲ調査スルコト
 - 二、非常事變アルトキハ警備規程ニ從ヒ臨機ノ處置ヲ爲スコト
 - 三、各室鎖鑰ヲ安全ニ保管スルコト
 - 四、文書等ノ收受發送ヲ爲スコト
- 但シ公文書中急ヲ要スルコトヲ認メタルモノハ直ニ校長若クハ當該課員ニ回附スルコト

第七條 當直者ハ左記事項ヲ當直日誌ニ記録シ該日誌ト共ニ保管竝ニ收受シタル文書及物品ヲ庶務係若クハ次番者（休日ナルトキ）ニ引繼クヘシ

但シ重要ト認ムル事項ハ口頭ヲ以テ校長若クハ當該課員ニ報告スヘシ

一、月日、曜日、天候

二、當直職員及校僕氏名

三、鎖鑰ヲ使用シタルトキハ其ノ事由

四、校内異狀ノ有無

五、來校者氏名及用件

六、其他處理事項ノ顛末

第八條 當直勤務中止ムヲ得サル事故ヲ生シタルトキハ第一條ノ職員中ヨリ代勤者ヲ定メ其ノ登校ヲ待チテ退出スルコトヲ得

第九條 庶務係ハ當直簿ヲ備ヘ當直勤務者當直免除者及當直缺勤者ニ關スル記録ヲナシ免除及缺勤ニ關シテハ其ノ理由ヲ明記スヘシ

八、貿易研究室規程

第一條 本研究室ハ貿易及其他國際的經濟問題ニ關シ理論ノ研究竝ニ實地ノ調査ヲ行フヲ以テ目的トス

第二條 本研究竝ニ其ノ目的ノ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、研究調査ニ必要ナル圖書資料ノ蒐集整理竝ニ保管利用

二、研究調査ニ關シ職員生徒竝ニ實際家ト連絡シ必要ナル協同ヲ行フコト

三、研究調査ノ結果ノ發表

四、其他本研究室ノ目的ノ爲メ適當ト認メタル事項

第三條 本研究室ニ左ノ役員ヲ置キ本校職員中ヨリ校長之ヲ命ス

委員若干名 研究調査ヲ分擔シ協同シ事業ノ遂行ニ當ル

主任 一名 委員中ヨリ之ヲ命シ本部ノ事業ヲ統括ス

常務委員一名 委員中ヨリ之ヲ命シ本部ノ常務ヲ處理ス

係員若干名 委員ノ指揮ニ從ヒ事務ニ從事ス

第四條 圖書課ノ管理ニ屬スル圖書ニシテ本研究室ニ必要ナルモノハ圖書課ノ委託ヲ受ケ本室ニ於テ之ヲ管理スルコトヲ得

○職員

○現職員

(十月現在)

校長
教授

法學士 伊藤眞雄

修身、心理及論理

文學士 (兼) バチエラー、オブ、アーツ (スタンフォード大學)

西居靈證

英語

商業算術、銀行簿記、取引所、原價計算、販賣研究

法學士

鈴木富太郎

法學通論、憲法、民法、統計學、國際公法

(在外研究中)

經濟學士

須藤文吉

交通、陸運、財政學、工業政策、交通研究

金融、信託、英文經濟、獨逸語、金融研究

經濟學士

小松泰馬

商業簿記、會計學、會計學研究

法學通論、民法、商法

經濟學士

岡田

英語、英文經濟

(在外研究中)

經濟學士

須永秀彌

商品學、經濟地理、植民、商品研究、經濟地理研究

商業通論、賣買、貿易實踐、貿易實踐研究

經濟學士

岡田

哲學概論、社會政策、教育學、英文經濟、國史、獨逸語、獨文經濟學研究

經濟通論、貿易、海運、海運研究、貿易研究

保險、海上保險、生命保險、火災保險、保險研究

英語

商業政策、銀行、倉庫

經濟學士

田村實

生徒主事

文學士

文學士

谷口重吉

文學士

文學士

前田加一郎

文學士

文學士

橋本泰來

文學士

文學士

北尾政男

文學士

文學士

西居靈證

文學士

文學士

鈴木富太郎

文學士

文學士

小松泰馬

砲兵中佐

砲兵中佐

中林袈裟吉

步兵特務曹長

步兵特務曹長

檜崎正雄

迎垣半治

迎垣半治

教授囑託

教授囑託

英文通信、貿易通信、英語

文學士

中村長之助

國語漢文、作文及書法

文學士

永松忠雄

教練

步兵少佐

永村末喜

數學、商業數學

理學士

尾上千之

職員

商業學、簿記

商法

工業要項

獨逸語

外國爲替、爲替研究

物理學

經濟史

經營學、經營學研究

佛蘭西語

自然科學、化學、商品研究

佛蘭西語

支那語

商學士
神戶商大教授 法學博士

工學士

文學士

大阪商大高商部教授 (マスター、オブ、アーツ
ワイズコンシン大學)

神戶高工教授 工學士

神戶商大教授

大阪商大高商部教授 經濟學士

關西大學教授

京都帝大農學部助手 理學士

關西大學教授 法學士

關西學院高商部講師

大塚俊郎

齋藤常三郎

川井 一

佐々木圓梁

池田實

上林 一雄

宮下 孝吉

松井辰之助

賀來俊一

齋藤 仁

賀屋俊雄

山名正孝

講師

書法

珠算

タイプライティング

劍道

柔道

縣立第一神戸商業教諭

(兼)

縣立第一神戸商業教諭

縣立第一神戸商業教諭

小林好重

余根田廣太郎

近藤主二

山本重遠

外國人教師

英語

英語

英語

英語

支那語

書記

竹中俊雄

物延研治

馬田瀧三郎

近藤主二

本多新一郎

西本 勇治

森本 初次

桑重 一男

宮里アサエ

竹田正次

縣立神戸病院内科部長 醫學博士

職員

校醫

○事務分掌

教務課

課長

教授兼
生徒主事

西居
物延
近藤
宮里

靈證
研治
主二
了サ
エ

生徒課

課長

生徒係兼

警備主任

生徒係

生徒係

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

教授兼
生徒主事

圖書課

課長

教授兼
生徒主事

桑重
小松
本多
桑重

馬
一
一
一

事務課

會計係主任
兼庶務係
兼會計係

庶務係主任

書記
書記
書記

竹中
本多
馬田
西本

雄
郎
郎
郎

貿易研究室役員

委員

委員

委員

委員

主任

常務委員

係員

教授

教授

教授

教授

教授

教授

教授

教授

生徒

出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍
姫路中	天野謙一	兵庫	第二神戸中	多田登司	兵庫	第二神戸中	多田登司	兵庫
京都第二中	青山義男	京都	同	高垣順治	同	同	高垣順治	同
京都第一中	土井英夫	京都	同	高井恒昌	同	同	高井恒昌	同
大阪市岡商	藤本二郎	和歌山	同	高頭中丸	東京	同	高頭中丸	東京
島根松江商	藤田晴	島根	同	田中孝一	兵庫	同	田中孝一	兵庫
吳第一中	後藤嘉雄	廣島	同	谷口英一	大阪	同	谷口英一	大阪
第二神戸中	濱田勝司	兵庫	同	山口皓三	同	同	山口皓三	同
明石中	石原富太	岡山	同	山口皓三	同	同	山口皓三	同
第一岡山中	金山悦二	岡山	同	有馬徹雄	同	同	有馬徹雄	同
同	岸田純三	兵庫	同	福鳥教正	同	同	福鳥教正	同
第一神戶商	前田丹次	同	同	奥田清	同	同	奥田清	同
第一神戶商	前川圭二	同	同	佐々木清	同	同	佐々木清	同
同	松本家治	同	同	武田謹爾	同	同	武田謹爾	同
第一神戶中	南川善雄	同	同	寺本英治	同	同	寺本英治	同
同	同	同	同	宇野大次郎	同	同	宇野大次郎	同
第一神戶商	三宅正紀	同	同	魚田太郎	同	同	魚田太郎	同

五三

○生徒

第三學年

A組 (四十八名)

(昭和十一年九月末日現在)

職員

職名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍
校長	中垣貢	同	同	中垣貢	同	同	中垣貢	同
教頭	片岡秀吉	同	同	片岡秀吉	同	同	片岡秀吉	同
書記	水谷桂之輔	同	同	水谷桂之輔	同	同	水谷桂之輔	同
講師	増田正巳	同	同	増田正巳	同	同	増田正巳	同
配屬將校	山口縣熊毛郡大野村	山口縣熊毛郡大野村	同	山口縣熊毛郡大野村	山口縣熊毛郡大野村	同	山口縣熊毛郡大野村	山口縣熊毛郡大野村
教授嘱託	松宮啓	同	同	松宮啓	同	同	松宮啓	同
教授嘱託	ジャーン、フアヴェリアル	同	同	ジャーン、フアヴェリアル	同	同	ジャーン、フアヴェリアル	同
教授嘱託	ポール、イ、エツクル	同	同	ポール、イ、エツクル	同	同	ポール、イ、エツクル	同
教授嘱託	大田節男	同	同	大田節男	同	同	大田節男	同
教授嘱託	中野亮之助	同	同	中野亮之助	同	同	中野亮之助	同
教授嘱託	シ、ビ、ケ、アーガル	同	同	シ、ビ、ケ、アーガル	同	同	シ、ビ、ケ、アーガル	同
書記	勝野勳	同	同	勝野勳	同	同	勝野勳	同
書記	安藤榮	同	同	安藤榮	同	同	安藤榮	同
講師	若林信治	同	同	若林信治	同	同	若林信治	同
教授嘱託	岡本修助	同	同	岡本修助	同	同	岡本修助	同
教授嘱託	杉浦舜	同	同	杉浦舜	同	同	杉浦舜	同

五二

第三學年 B組 (四十七名)

出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍
第一神戸商	朝藤和彦	兵庫	大阪八尾中	松本順	大阪	報徳商	柴田三郎	兵庫	第一神戸中	田村義雄	同
姫路中	大義孝	同	第一神戸中	松岡辰五郎	兵庫	京都第一商	田中忠	同	第一神戸中	田村義雄	同
第三神戸中	古龍雄	同	龍野中	松島喜雄	兵庫	同	田中忠	同	同	田中忠	同
第一神戸中	濱昌彌	同	第一神戸商	三津正四郎	同	大阪市商	鷺尾昇	大阪	同	鷺尾昇	同
大阪北野中	井克也	大阪	第一神戸中	中川洋二	同	第二神戸中	八木敏夫	同	同	八木敏夫	同
育英商	池秀一	同	同	西川健三	同	第一神戸中	横田邦夫	同	同	横田邦夫	同
第一神戸商	井正一	兵庫	三田中	西脇吉夫	同	小野中	古谷義雄	同	同	古谷義雄	同
福知山中	伊東龍一	京都	京都第一中	岡部正夫	京都	第一神戸中	中島忠	同	同	中島忠	同
加古川中	柿坪貞夫	兵庫	第一神戸商	奥村貞夫	兵庫	第二神戸中	同	同	同	同	同
尼崎中	神戶一	同	第三神戸中	小野昌昭	同	廣島第一中	佐野利治	同	同	佐野利治	同
第一神戸商	木村右	同	仙臺商	太田信兵衛	宮城	明石中	住野五郎	兵庫	同	住野五郎	同
加古川中	北島康弘	同	第三神戸商	大谷龍吉	兵庫	第一神戸商	田村彌三	兵庫	同	田村彌三	同
第三神戸中	圓山成治	同	第一神戸中	瀬々木貞治	同	大阪福島商	矢田厚	兵庫	同	矢田厚	同
第一神戸商	松井政利	兵庫	姫路商	同	同	同	同	同	同	同	同

第三學年

C組 (四十七名)

出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍
第三神戸中	荒田菊二	兵庫	第一神戸中	三輪克	兵庫	第一神戸中	鈴木木	京都	第三神戸中	前田元繼	同
第一神戸中	藤本慶一郎	同	龍野中	水井富一	同	第一神戸商	武村高	同	同	前田元繼	同
灘中	福原逸太郎	同	第一神戸商	村上善一	京都	第二神戸中	田村高	同	同	前田元繼	同
京都桃山中	古川秀夫	京都	京都第一商	長岡善二郎	京都	甲陽中	田村高	同	同	前田元繼	同
第一神戸中	濱本直一	兵庫	金澤第一中	中川善二	石川	京都第一商	渡邊良一	京都	同	前田元繼	同
同	早瀬伸	福井	灘中	中山隆一	大阪	柏原中	柳田全	同	同	前田元繼	同
第三神戸中	石田太喜	兵庫	甲陽中	中山隆一	同	姫路中	米澤正	同	同	前田元繼	同
第一神戸中	磯野辰男	同	洲本商	大石正藏	兵庫	第二神戸中	濱田正	同	同	前田元繼	同
島根松江中	泉周吉	同	第一神戸中	大野正久	同	第一神戸中	片霧二	同	同	前田元繼	同
奈良五條中	梶谷豊治	奈良	第一神戸中	大嶋榮一郎	同	同	久保章	同	同	前田元繼	同
第二神戸中	北川治也	同	同	澤本仁隆	同	同	増保章	同	同	前田元繼	同
大阪北野中	清瀬七郎	兵庫	同	重本仁隆	同	同	松村義博	同	同	前田元繼	同
横濱第一中	小林秀雄	同	同	進藤志朗	同	同	三宅義博	同	同	前田元繼	同
第一神戸中	小河俊夫	兵庫	同	曾我部秀文	同	同	宮本俊郎	同	同	前田元繼	同
同	河野通治	高知	同	鈴川鹿正	同	同	坂根照好	同	同	前田元繼	同
第三神戸中	前田元繼	兵庫	廣島第一中	鈴川鹿正	廣島	第一神戸商	坂根照好	兵庫	同	前田元繼	同

第二學年

C組 (五十三名)

出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍
第一神戸商	足立 泰造	兵庫	第二神戸中	岸本 歳吉	兵庫	第二神戸中	高倉 良吉	兵庫
第二神戸商	出本 新太郎	同	第三神戸中	小松 原隆	同	同	高屋 寛治	同
第一神戸中	福永 三郎	同	同	河野 哲夫	同	高知城中	竹村 直巳	高知
第二神戸中	古屋 茂郎	山梨	第一神戸商	小川 信男	同	瀧川中	田中 時治	三重
大阪住吉中	五島 治	兵庫	第一神戸中	前川 光三	同	報徳商	富永 豊	兵庫
高知城中	早川 龍雄	長野	第一神戸中	小川 兼三	石川	第三神戸中	宇野 禎夫	高知
第一神戸商	廣松 啓吉	高知	第一神戸中	中村 順一	大阪	第一神戸中	矢野 鷹二	兵庫
第一神戸中	廣岡 守夫	三重	中	中西 利幸	福岡	第一神戸商	米田 雄	兵庫
旅順中	廣瀬 祐一	兵庫	大村 龍太	落合 辰夫	兵庫	佐賀唐津中	米倉 穰	佐賀
第一神戸商	久野 義雄	佐賀	小野 寛信	大野 辰夫	兵庫	龍野中	荒川 義春	兵庫
大阪北野中	石山 正男	兵庫	坂島 武巳	長崎 川	兵庫	廣島尾道商	久川 重博	廣島
大連商	岩井 喜八郎	和歌山	鹽谷 昌治	同	兵庫	第一神戸中	角岡 正彦	熊本
第三神戸商	泉光 秋	兵庫	白川 三雄	同	兵庫	尼崎中	松本 精一	兵庫
第一神戸商	神田 稔	兵庫	須藤 英男	同	兵庫	第一神戸中	森田 馨	同
廣島尾道中	葛西 泰夫	兵庫	鈴江 瞭一	同	兵庫	同	田林 重弘	同
第一神戸商	川本 孝一	大阪	高橋 堯	同	兵庫	同	武田 幸雄	同

第一學年

A組 (五十四名)

出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍	出身校名	氏名	本籍
第三神戸中	安藤 太郎	兵庫	甲陽中	清岡 直之	高知	臺南第一中	大坪 豊治	北海道
大阪高津中	淺野 昌武	大阪	第三神戸中	小島 政雄	高知	第一神戸中	尾崎 榮三郎	大阪
加古川中	藤田 健三	兵庫	高知中村中	楠本 正時	高知	第一神戸中	齋藤 信也	兵庫
福之館山中	濱田 雄三	同	第二神戸中	丸山 泰雄	兵庫	澤田 登太郎	同	同
誠之館山中	東田 治徳	同	京都第三中	松原 道雄	石川	鳥崎 欽也	同	同
第二神戸中	日吉 勝郎	兵庫	大阪茨木中	妻鹿 利男	兵庫	高橋 欽香	新	湯
灘中	井口 泰藏	同	臺南第一中	水島 正章	大阪	高田 豊一	兵庫	同
豊岡中	伊原 信雄	同	天王寺中	森田 三郎	大阪	竹林 文二	同	同
瀧川中	今井 俊治	同	第三神戸中	村上 靖夫	兵庫	瀧谷 善三郎	大阪	同
廣島第一中	伊東 信行	同	第一神戸中	村上 三千日子	同	梅田 正彌	山	阪
加古川中	金澤 健二	兵庫	第一神戸中	中村 謙四郎	同	若林 正彌	山	阪
第一神戸中	加藤 元信	同	中	中塚 信四郎	同	八木 稔雄	兵	庫
同	川口 誠一	同	龍野中	立命館中	京都	山田 豊信	同	同
鳥取第二中	河崎 浩夫	同	大北野中	西岡 邦信	大阪	山田 豊信	同	同
關學中學部	木下 信滋	兵庫	第一神戸中	大橋 英敏	愛媛	山本 忠行	同	同
瀧川中	木下 信滋	兵庫	京都第一中	近江 正治	京都	山本 忠行	同	同
京都第一中	岸本 貞二郎	大阪	第一神戸中	大森 隆夫	兵庫	山本 忠行	同	同
大連第二中	北村 照雄	東京	第二神戸中	大西 長藏	兵庫	安福 清一	同	同

都	仙	金	坂	米	松	廣	尾	津	第	東	成	扇	福	明	西	大	天	市	京	京	京	洲
城	臺	澤	出	子	江	島	道	山	一	器	町	島	星	區	倉	王	岡	都	都	都	本	
商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	業	業	業	業
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	實	業	業	業
學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	修	業	業	業
校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校
宮	宮	石	香	島	島	廣	廣	岡	岡	大	大	大	大	大	大	大	大	大	京	京	京	兵
崎	城	川	川	取	根	島	島	山	山	阪	阪	阪	阪	阪	阪	阪	阪	阪	都	都	都	庫

| - | | | - | | | - | | | - | | | - | | | - | | | 三 | | 五 -

| | - - | | - 三 - | | | | - | | | - | | | - | | | 七 |

- | | | - - | | | - | | 二 - - | 三 | 二 三 - - 三 四 |

- - - 三 - - - 三 三 - 二 - - - 四 - 二 三 四 - 三 六 -

報	中	育	經	第	第	第	第	第	大	旅	群	臺	臺	札	東	東	第	新	宮	唐	佐	高
德	外	英	路	三	二	一	二	一	連	順	山	北	南	幌	京	京	一	湯	崎	津	世	知
商	商	商	商	港	港	港	戶	戶	第	中	公	第	第	第	第	第	橫	野	中	中	中	中
業	業	業	業	業	業	業	業	業	中	學	立	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學
校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校
兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	關	關	朝	臺	臺	北	東	東	神	新	宮	佐	長	高
庫	庫	庫	庫	庫	庫	庫	庫	庫	州	州	鮮	灣	灣	道	京	京	川	湯	崎	賀	崎	知

- - - 三 二 | 六 | 八 | | | | - | | - | | | |

- - | 二 三 - 九 三 三 | - - | - | | - | | - - |

| | | 五 二 | 二 | 九 - | | - - | - | | - - | | -

二 二 - 〇 七 - 七 三 〇 - - - - 二 - - - - - - - -

七、職員及傭人數表

(昭和十一年十月一日現在)

現員	官職	校長	教授	主事	助教	書記	囑託	講師	外國人	配屬	雇員	校醫	門候	小使	計
一		一	一	一	二	五	一	五	一	一	四	一	二	六	六五

八、圖書冊數

(昭和十一年十月一日調)

部	門	和書冊數	洋書冊數	合計
第一門	總產	四、〇〇二	三四三	四、三四五
第二門	商業	一、二四〇	三三	一、二七三
第三門	經濟	一、八二二	九一二	二、七三四
第四門	社會、政治、外交	二七六	五〇九	七八五
第五門	法、哲學、教育	六〇五	二五〇	八五五
第六門	宗、史、地	五〇五	二七八	七八三
第七門	語、文、藝	六九八	七七	七七五
第八門	理、學、工	九四三	四二九	一、三七二
第九門	計	一四〇	一三	一、五三
合計		一〇、三九〇	二、九三八	一三、三二八

九、敷地及建物

一、敷地

校

舍

兵庫縣明石郡垂水町字高丸陸

敷地面積 約壹萬九千坪

二、建物

物

總面積	一八二四・三九九
地階面積	九一・六六七
壹階面積	五〇二・九六四
貳階面積	五〇二・九六四
參階面積	二八六・五二七
四階面積	二二一・五二七
塔屋面積	一一二・七五〇
雨天體操場及武術場	一七六・〇〇〇
倉庫	三〇〇・〇〇〇
地階之部	二〇・三六〇
機關室	一・五六〇
便所	四・八〇〇
石炭庫	二・三三一〇
倉庫	八・六六四
小使室	一四・六四〇
湯沸場	一〇・〇〇〇
階下	八・三三三

壹階之部	九一・六六七
圖書閱覽室	六五・〇〇〇
圖書事務室	二〇・〇〇〇
圖書事務室	七・五〇〇
便階	一一・六八八
九階	一一・五一一〇
集會室	二二・三七五
受付及宿直室	八・二五〇
玄關	八・二五〇
階	三八・五〇二
水	一〇・〇〇〇
應接室	一〇・〇〇〇
職員室	一〇・〇〇〇
校長室	一三・三三六
事務室	一三・三三六
研究室	二六・六六四
教務課	一七・六六四
人事課	一〇・〇〇〇

諸統計

卒業生

上組合資會社	日本ハイト會社	兵庫縣廳	神戸市灘區	自家營業	死	神戸中央卸賣市場	大日本紡績會社	石炭商自營	日本燒酎工業組合	川邊郡立花村	神戸市役所	高島屋	死	自家營業	野村砂糖店自營	野村市役所	自家營業	嘉納合名會社	大阪朝日新聞社	久井堂自營	神戸稅關	日本ハイト工場	福昌商會自營		
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	
島	島	野	野	南	村	尾	濱	川	川	川	川	島	村	本	野	野	村	里	波	林	久	廣	福	福	
隆	數	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
郎	郎	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮
中外商	瀧川中	三田中	育英商	育英商	第二神戶中	第一神戶商	同	瀧川中	第一神戶中	鳥取一中	明石中	第二神戶中	同	京都第二商	第三神戶中	第二神戶中	同	第一神戶商	第一神戶中	第一神戶商	第一神戶中	第一神戶商	第一神戶中	第一神戶商	

八〇

嵩山堂貿易會社	ベルグマン商會	臺灣總督府交通局	神戸稅關	自家營業	死	神明自動車會社	自家營業	大阪中央放送局	中央自動車會社	神戸市役所	増田要祐商店	京都松原商務學校	日本絹織會社	町田商會	日本鑄鋼所	愛國石油商會	自家營業	神戸市電氣局	日本ハイト會社	神戸中央卸賣市場	神戸稅關	神戸製鋼所	神戸稅關	
福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福	福
永	本	井	尾	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤
勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝
甲陽中	第二神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中

第二回卒業生

(昭和八年三月卒業 百五十一名)

三越神戸支店	帝國酸素會社	中村商店	安井計理士事務所	木村淺七商店	日本毛織會社	徳山曹達工業會社	三興商業會社
毛	守	八	安	矢	山	山	山
利	屋	洲	井	羽	山	山	山
貞	楠	孝	喜	野	高	高	高
信	男	夫	郎	清	士	士	士
第三神戶中	第二神戶中	同	第三神戶中	第一神戶中	第三神戶中	第三神戶中	第三神戶中

大阪朝日新聞社	兵庫縣廳	東京製線會社	龍江省公署民政廳	滿蒙デパート	神戸新聞紹介部	日東商會社
山	山	山	山	山	山	山
本	本	本	本	本	本	本
國	國	國	國	國	國	國
次	郎	雄	次	次	次	次
天王寺商	明石中	第一神戶中	同	同	同	同

死	神戸市電氣局	氷上郡大路村	大正海上火災保險	林田區役所	滿洲國安東稅關	新開聯合社	片倉製糸紡績會社	御木本眞珠店	大阪商船會社	神戸商大學
青	青	秋	秋	淺	淺	淺	淺	淺	淺	淺
木	山	末	山	井	見	部	賀	藤	池	石
伸	三	弘	慶	千	房	好	俊	正	正	正
夫	郎	弘	志	武	織	信	夫	也	也	也
第一神港商	一宮中	柏原中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中

田島商店	山上商會社	富永興業會社	福壽火災保險會社	澤野貞次郎商店	三興商業會社	藤忠商店	五十六銀行	丸二商店	長谷川商店	自家營業
石	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
原	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川
正	義	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸
武	行	靖	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫
愛知商	大阪北中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中

卒業生

大阪通信局	魚上	田信	弘	柏原中
昌和洋行	住田	大行	夫	大連商
若松高等小學校	河内	三田	大	三田中
大阪三品取引所	河原	尼崎	大	尼崎中
自家營業	島	第二神戶中	二	第二神戶中
神戶商大學生	谷	第一神戶中	二	第一神戶中
神戶高商教授囑託	塚	第一神戶中	二	第一神戶中
三井物産會社	前	三田	二	三田中
大阪稅關	村	加古川	信	加古川中
日本晝夜銀行	島	第一神戶中	郎	第一神戶中
大平鐵山會社	野	小野	茂	小野中
角倉商店	岡	三田	雄	三田中
三井生命保險會社	岡	第二神戶中	保	第二神戶中
松下電器產業	岡	大野	一	大野中
神戶長瀬商會	尾	大阪市岡商	夫	大阪市岡商
死	小	京都第二商	郎	京都第二商
カネキ自動車商店	織	茨木商	卿	茨木商
長野縣諏訪郡富士見村	笠	諏訪	郎	諏訪中
伊藤忠商會社	柏	三田	藏	三田中
江畑貿易合資會社	金	大阪扇町商	藏	大阪扇町商
梶村瓦治商店	金	第三神戶商	信	第三神戶商
昌和洋行	加	姫路	三	姫路商
安田銀行	河	岡山二	進	岡山二中
田村商會	河	第一神戶商	太	第一神戶商

八二

津田電線會社	川	川	武	雄	鳳鳴中
東京鐵道局	川	本	義	夫	第三神戶中
明石市五分一町	川	田	敏	明	第一神戶商
野村證券會社	北	裏	喜	郎	日高中
三和銀行	木	村	清	市	洲本中
大和市此花區吉野町一丁目	木	村	幸	節	甲陽中
大阪貯蓄銀行	木	村	美	夫	第三神戶中
大阪鐵工所	久	保	仁	繼	福岡商
八幡郵便局	木	田	次	郎	第一神戶商
九州帝大學生	黑	坂	仁	郎	第一神戶商
宗像商會	小	坂	達	郎	第三神戶商
阪神電氣鐵道會社	小	寺	正	雄	第一神戶商
帝國酸素會社	小	林	愛	郎	第三神戶商
今野商店	近	藤	秀	清	三田中
日商株式會社	香	川	太	治	三田中
大	大	丸	間	郎	第三神戶中
淺野信治商店	佐	久	英	夫	第一神戶中
神戶稅關	佐	藤	三	猛	第一神戶中
神戶瓦斯會社	神	田	梅	郎	第三神戶中
ニホン・エキス	神	田	直	郎	第一神戶中
ポルトカンパニ	山下	汽船會社	川	茂	第一神戶中
昭和美絲紡績會社	山下	汽船會社	川	郎	第一神戶中
大日本農道新聞社	大	日本農道新聞社	川	夫	第一神戶中

卒業生

大阪鐵道局	杉	谷	敏	夫	第一神戶商
神戶商大學生	鈴	木	勉	之	高津中
石田帽子店	角	田	正	勉	神港中
枋木商事	高	木	成	行	第二神戶中
川崎汽船會社	武	本	成	關西學院中	第一神戶中
富士紡績	田	代	二	第一神戶中	第一神戶中
東京海上火災	田	中	二	第一神戶中	第一神戶中
野澤組神戶支店	田	中	二	第一神戶中	第一神戶中
神榮生絲會社	田	中	安	第一神戶中	第一神戶中
自家營業	田	中	芳	第一神戶中	第一神戶中
大阪商船會社	谷	口	英	第三神戶中	第三神戶中
死	田	淵	武	第二神戶中	第二神戶中
神戶市役所	告	野	嘉	第一神戶中	第一神戶中
三井物産會社	筒	井	嘉	會津中	會津中
三井生命保險會社	堤	金	一	大分白杵商	大分白杵商
第一銀行	外	山	正	第一神戶商	第一神戶商
内谷商店	中	谷	四	西南學院中	西南學院中
自家營業	中	田	芳	大阪扇町商	大阪扇町商
株式會社壽屋	中	野	男	甲陽中	甲陽中
大日本蓄音機會社	中	村	雄	天王寺商	天王寺商
東西電球會社	永	井	正	明石中	明石中
松山彌五郎商店	永	瀨	誓	三田中	三田中
神戶海上火災保險	長	野	重	岐阜中	岐阜中

八三

帝國精密工業會社	永	森	春	雄	第三神戶中
三井物産會社	橋	崎	八	夫	第一神戶商
大阪鐵道局	成	瀨	武	夫	第一神戶商
大倉商事會社	西	尾	雄	一	第一神戶中
山田合同運送	西	川	元	介	宇治山田商
豐國自動車會社	野	口	二	郎	城東商
死	野	口	直	郎	土佐中
神戶瓦斯會社	能	勢	三	郎	豐中中
神戶市湊區矢部町	橋	本	一	男	第二神戶中
死	長	谷	川	潔	第一神戶中
三菱商事	林	邦	彦	桂	第一神戶商
東京海上火災保險	林	田	太	郎	第三神戶中
日商株式會社	原	田	太	郎	第三神戶商
三十八銀行	原	田	太	郎	第一神戶商
藤井商店	藤	井	種	郎	第一神戶商
鐘ヶ淵紡績會社	藤	瀨	元	生	高津中
野澤組神戶支店	藤	林	太	郎	第一神戶商
丸善礦油合名會社	藤	本	三	男	瀧川中
濱中商店	藤	本	三	男	龍野中
兵庫縣農工銀行	福	島	一	敏	第一神戶中
南滿洲鐵道會社	福	島	武	同	第一神戶中
タキイ種苗會社	福	島	武	同	第一神戶中
田村商會	福	田	美	雄	第二神戶中

卒業生

名古屋市南區	北倉町	橋本汽船株式會社	白鶴嘉納合名會社	南洋倉庫會社	東京商大學	死	兵庫縣販賣購買	組合區熊内町	四丁目	野村證券會社	神戶稅關	灘區八幡町一丁目	富國海上火災保險	兵庫縣廳	自家營業	大阪商船會社	山田塗料商店	帝國酸素會社	東洋紡績會社	
前田	前田	井田	井田	松村	松村	松本	丸尾	萬谷	水口	南宅	三宅	棕尾	室井	本橋	本橋	山田	山田	柳門	柳門	
重太郎	實太郎	三太郎	大太郎	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商
名古屋	東海	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商

第三回卒業生

(昭和九年三月卒業 百三十九名)

朝鮮總督府

赤青	木木	克末	已彦
出身學校	第二神戶中	岡山關西中	

力關西電會社

荒麻	川田	和武	郎夫
出身學校	浪華商	京都第一商	

卒業生

大阪鐵道局	中山製鋼所	川崎造船所	大阪機械工作所	川崎造船所	神戶商大學	川崎車輻會社	三十八銀行	大阪シンガ	三丁目	東京市澁谷區原宿	明石郡玉津村	神戶商大學	自家營業	神戶商大學	自家營業	三井物產會社	秋每護謨會社	ナショナル	岸和田紡績會社	三菱海上火災保險	小林機寸會社	田村輸出商會	兵庫縣廳	
荒新	飯新	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井	池井
木正	正英	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田	奧田
男	雄	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹	徹
第二神戶商	育英	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川	小石川

高木吉兵衛商店	大阪鐵道局	廣島縣品郡	府中町	死	自家營業	九州帝大學生	神崎郡山田村	杉本史郎商店	南洋倉庫會社	橫山商會	川崎造船所	神戶商大學	東洋綿花會社	神戶商大學	神戶商大學	神戶商大學	宮部末高合名會社	南滿洲鐵道會社	大阪鐵道局	大阪陶業會社	神戶商大學	ニッケル會社	兼松商店	
高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木
浦上	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村	江村
忠	清	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉	嘉
第二神戶中	廣島府中	洲本	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	

第四回卒業生

(昭和十年三月卒業 百四拾六名)

今與商店	九州大學法文學部	川崎汽船會社	丸善礦油合名會社	神戶商大學生	大日本紡績會社	神戶商大學生	伊藤忠商事會社	自家營業	阪神電氣鐵道會社	神戶商大學生	高島屋飯田會社	大阪鐵道局	日本火災保險會社	自家營業	竹馬商店	阿崎銀行	神戶商大學生	神戶商大學生			
今	井	井	井	井	一	磯	石	石	石	石	池	飯	飯	網	足	朝	淺	秋			
西	上	上	上	上	色	野	山	光	田	田	內	田	鳥	義	立	日	原	山			
康	道	幸			大	二		一	鐵	敏	正	一	正		孝	健	芳	善			
二	雄	一	清	章	郎	務	雄	次	雄	三	六	明	勝	一	治	輔	夫	彦			
京都第一中	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶商	第一神戶中	福井武生中	第二神戶中	第一神港商	同	第三神戶中	第一神戶商	第一神港商	第一神港商	第三神戶中	同	第二神戶中	豐岡中	明石中	第一神港商			
神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生	神戶商大學生		
神	片	鹿	海	大	尾	大	長	大	奧	岡	岡	岡	岡	岡	江	江	浦	宇	上	上	岩
田	岡	島	江	平	花	塚	田	崎	田	本	本	本	本	本	里	見	敷	野	田	口	田
好	之	康	正	滿	武	義	正	清	健	五	一	忠	秀	修	三	友	忠	誠	意	君	意
助	正	敏	義	俊	郎	夫	彦	三	郎	保	久	孝	雄	一	男	龍	三	君	意	君	意
第二神港商	明石中	甲陽中	鹿兒島中	住吉中	第一神戶中	第三神戶中	第一神戶中	加古川中	市岡商	第一神港商	第一神港商	京都第二中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第二神戶中	大阪今宮中	第一神戶中	第二神戶中	第二神戶中	第二神戶中

日本海上保險會社	三井物產會社	五丁目大橋町	林田區大橋町	岸本商店	原田商事會社	中山太陽堂	帝國人造絹絲會社	自家營業	自家營業	神戶商大學生	兼松商店	兵庫縣農工銀行	松島商店	神戶商大學生	川崎造船所	自家營業	帝國酸素會社	田附商店	昭和石炭會社	神戶商大學生	大鐵百貨店	三菱銀行	神戶商大學生	大阪商工學校	
鈴	鈴	城	庄	首	神	重	佐	佐	佐	阪	齋	河	小	小	小	熊	楠	京	木	川	河	河	河	河	
木	木	野	藤	納	藤	藤	治	木	木	本	本	林	西	坂	谷	瀨	田	原	西	北	合	合	合	合	
正	輝	正	邦	武	吉	好	七	松	新	次	三	禎	干	道	博	慶	富	一	三	俊	彌	彌	彌	彌	
稔	清	男	之	一	正	三	三	一	朗	三	教	一	郎	郎	三	城	喜	寬	一	男	夫	郎	郎	郎	
鳥取第一中	四日市商	第一神戶中	德島中	愛媛西條中	甲陽中	第一神戶商	送賀長濱商	第一神港商	福島若松中	釜山公立中	第一神港商	第三神戶中	第一神戶中	加古川中	濱松第一中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	
宇治川電氣會社	自家營業	八馬汽船會社	一丁目水通	兵庫區水通	南滿洲鐵道會社	明治製菓會社	神戶商大學生	神戶商大學生	岸本商店	自家營業	高田清太郎商店	瀧川商店	日本絹織會社	中山製鋼所	神戶商大學生	山下汽船會社	神戶商大學生	石鹼會社	ベルゴム會社	秋每ゴム會社	三井生命保險會社	中山製鋼所	丸紅商店	神戶商大學生	大同學院
中	中	永	島	內	內	島	富	土	土	天	津	網	田	谷	田	多	高	高	高	高	高	高	高	高	粉
根	谷	島	藤	藤	井	岡	橋	居	毛	村	島	淵	川	中	田	谷	本	見	見	橋	橋	木	原	原	關
繁	文	一	芳	吉	正	芳	安	政	輝	之	克	弘	幸	芳	眞	幸	久	敏	武	秀	夫	夫	夫	夫	夫
數	彦	男	雄	三	三	郎	雄	治	春	夫	助	茂	已	誠	邦	義	紮	隆	一	作	勳	秀	夫	夫	
姫路中	甲陽中	下關中	育英商	秋田橫手中	第一神戶商	第二神港商	第一神戶中	同	第一神港商	小野中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	加古川中	第一神港商	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	第一神戶中	

多聞酒造會社	松	村	明石中	神戶瓦斯會社	柳	田	久	第三神戶中
神戶商大學生	松	本	第一神戶商	榎木商會社	山	田	二	豐岡中
大同マツチ會社	眞	鍋	第一神戶中	大阪變壓器會社	山	中	碩	岡山第二中
土井石油會社	三	木	姫路中	川崎造船所	山	中	也	第二神戶中
神戶商大學生	三	成	第一神戶商	參天堂株式會社	山	內	司	豐津中
竹村商店	水	上	北野中	河崎商店	山	本	三	第三神戶中
神戶製鋼所	宮	川	松山商	川崎車輛會社	山	本	本	第三神戶中
內務省	宮	本	第三神戶中	第一銀行	山	本	時	第一神戶中
大阪土木出張所	宮	本	明石中	淺野物產會社	山	本	英	第一神戶中
神戶商大學生	三	輪	姫路中	兼松商店	山	尾	武	明石中
長瀬商會	三	岡	佐賀中	グリコ株式會社	山	山	進	第三神戶商
神戶商大學生	村	山	第一神戶中	東洋製鐵會社	山	永	村	尼崎中
大阪大丸	村	喜	加古川中	共同漁業會社	山	萬	吉	下關商
春日染色工場	森	富	同	湯淺貿易會社	山	邊	貞	第一神戶中
日本海上保險會社	森	岡	明石中	自家營業	山	邊	正	第三神戶商
日本工具製作會社	森	靜	明石中	伊藤忠商會社	山	邊	宰	第一神戶商
日本レイヨン會社	安	邦	京都第一商					
京都陶磁器會社								

卒業生

九四

○關係法令

一、實業學校令 (抄) (明治三十二年勅令第二十九號)

第一條 實業學校ハ實業ニ從事スル者ニ須要ナル知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ徳性ノ涵養ニカムヘキモノトス
 第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス
 實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

二、專門學校令 (抄) (明治三十六年勅令第六十一號)

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス
 專門學校ニ於テハ人格ノ陶冶及國體觀念ノ養成ニ留意スヘキモノトス
 專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ
 第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得
 第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若クハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得
 前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
 第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス
 第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得
 第八條 (上略)
 公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私

立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立又ハ私立ノ專門學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

文部大臣ハ公立又ハ私立ノ專門學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セサルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

三、公立私立專門學校規程 (明治三十六年 文部省令第十三號)

第一條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 生徒定員

六 敷地建物ノ圖面及其ノ所有ノ區別

七 開校年月

八 經費及維持ノ方法

九 設立者ノ履歷

醫學專門學校ニ就キテハ臨床實習用病院ノ位置、敷地建物ノ圖面、臨床實習用患者ノ定員及解剖用屍體ノ豫定數ヲ具スヘシ

第一項第二項ノ敷地ニ關スル圖面ニハ面積、地質及附近ノ狀況ヲ記シ且ツ飲料水質ノ調査書ヲ添付スヘシ

第一項第一號乃至第七號及第二項ニ掲ケタル事項ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第八號ニ掲ケタル事項ノ變更ハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第二條 專門學校ハ校地、校舍、校具其ノ他必要ノ設備ヲ爲スヘシ

第三條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第四條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フヘシ

一 教室

二 事務室

三 其ノ他必要ナル實驗室、實習室、研究室、圖書室、器械室、標本室、藥品室、製煉室等ノ諸室

校舍ハ教授上管理上並衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第五條 學具ハ教授上必要ナル圖書、器械、器具、標本模型等トス

第六條 專門學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備フヘシ

一 學則、日課、教科用圖書配當表

二 職員ノ名簿及履歷書、出勤簿、擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、徴兵猶豫ニ關スル書類

四 試驗ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無

轉學退學ノ事由、徴兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

別科ノ生徒ニ關シテハ出席簿、徴兵猶豫ニ關スル書類ヲ省略シ及學籍簿ノ記入事項ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 專門學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

一 學位ヲ有スル者

二 帝國大學分科大學(元東京大學各部、元札幌農學校ヲ含ム)卒業者又ハ東京高等商業學校(元高等商業學校ヲ含ム)卒業者ニシテ

學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 文部大臣ノ指定シタル者

四 文部大臣ノ認可シタル者

前項第一號乃至第四號ニ該當スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ一時他ノ者ヲ以テ教員ニ代用スルコトヲ得

前二項ニ依リ認可ヲ受ケントスル場合ニハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ履歷書ヲ具シ文部大

臣ニ申請スヘシ但シ獎勵ニ依リ任命セラル、者ニ就テハ別ニ認可ノ手續ヲ經ルコトヲ要セス
文部大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ場合ニ於テ學術ノ檢定ヲ行フコトアルヘシ

本條ニ依ル文部大臣ノ認可ハ當該學校在職中ニ限り有効トス
第八條 專門學校ニ於テ本科生徒ヲ入學セシムルハ毎年一回トス其期間ハ三十日以内トス但シ學科課程相同シキ專門學校間ニ於ケル生
徒ノ轉學ニハ本文ヲ適用セス

專門學校ノ本科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ本科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル資格ヲ有シ且前各學年ノ學科課程ヲ卒リタル
者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ學年級ヲ設ケサル專門學校ニ就キテモ之ニ準ス
前項入學者ノ學力ハ總テ試驗ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第九條 (略)

第十條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

第十一條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十二條 專門學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡ソ左ノ如シ

- 一 入學資格、修業年限、學科、學科目、學科程度ニ關スル事項
 - 二 學年、學期、休業日ニ關スル事項
 - 三 入學、退學、進級、卒業等ニ關スル事項
 - 四 懲戒ニ關スル事項
 - 五 入學科、授業料等ニ關スル事項
 - 六 豫科、研究科、別科ニ關スル事項
 - 七 寄宿舎ニ關スル事項
- 第十三條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ廢止ノ認可ヲ受ントスルモノハ其理由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第十四條 專門學校令十五條ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケントスルモノニ付テハ本令第一條ヲ準用ス
第十五條 實業專門學校ニ關ツテハ特別ノ規程アル場合ニハ本令ヲ適用セス

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス
明治十五年文部省達第四號、同第五號同第六號中甲種藥學校ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

四、公立學校職員制 (抄) (大正六年勅令第五號)

第一條ノ三 公立ノ專門學校、實業專門學校及高等學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 學 校 長
 - 教 授
 - 生 徒 主 事
 - 助 教 授
 - 書 記
 - 生 徒 主 事 補
- 第三條 專門學校、實業專門學校及高等學校ノ學校長ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス
學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
第五條 專門學校、實業專門學校、高等學校、大學豫科及高等女學校高等科ノ教授ハ奏任官ノ待遇、助教授ハ列任官ノ待遇トシ生徒ノ
教育ヲ掌ル(下略)
第五條ノ二 專門學校、實業專門學校、高等學校ノ生徒主事ハ教授ノ中ヨリ之ニ兼任ス但シ特別ノ事情アルトキハ專任ノ生徒主事ヲ置
クコトヲ得
專任生徒主事ハ奏任官ノ待遇トス生徒主事ハ學校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル
第八條ノ五 專門學校、實業專門學校及高等學校ノ生徒主事補ハ助教、教諭又ハ助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス但シ特別ノ事情アルトキ
ハ專任ノ生徒主事補ヲ置クコトヲ得
專任生徒主事補ハ列任官ノ待遇トス

生徒主事補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク
 第十一條 大學、專門學校、實業專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ書記ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

五、公立學校職員待遇官等等級令(抄) (大正六年 勅令第七號)

第一條 公立學校職員ニシテ委任官ノ待遇ヲ受クル者ノ官等ハ別表第一表ニ依ル
 第三條 高等官等俸給令第二條、第三條第二項及第五條第一項ノ規定ハ委任官ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ任免及級等ニ之ヲ準用ス(第二項略)
 高等官三等ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ハ在職二年ヲ超ニルニ非サレハ之ヲ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ス
 前三項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ハ之ヲ同官等待遇ヲ受クル公立學校職員ノ在職年數ト看做ス
 第四條 公立學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ等級ハ別表第二表ニ依ル
 職員制上他ノ職ニ在ル者ヲ以テ兼ネシムル職ノ等級ハ本職ノ等級ニ依ル
 第五條 公立學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ進退ハ地方長官之ヲ專行ス
 第六條 公立學校職員ニシテ勅任官、委任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ席次ハ同官等又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席トス
 第七條 公式令第十四條第三項、第四項及第十五條第三項、第四項ノ規定ハ勅任官又ハ委任官ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ官記及免官ノ辭令書ニ之ヲ準用ス

第一表

高等專門學校	勸任官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官
		三等待遇	四等待遇	五等待遇	六等待遇	七等待遇	八等待遇
專門學校	學校長	同	同	同	同		
		同	同	同	同		
實業專門學校	教授	同	同	同	同		
		同	同	同	同		
高等學校	生徒主事	同	同	同	同		
		同	同	同	同		

第二表

判任官一等待遇	判任官二等待遇	判任官三等待遇	判任官四等待遇
月俸百圓以上	月俸七十圓以上	月俸五十圓以上	月俸五十圓未滿
	百圓未滿	七十圓未滿	五十圓未滿

六、公立學校職員俸給令(抄) (明治三十六年 勅令第六十六號)

第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、大學豫科、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官委任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ
 第二條 勅任官又ハ委任官ノ待遇ヲ受クル專門學校、實業專門學校、大學豫科及高等學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
 第四條 判任官ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第四號表ニ依ル
 第五條 官更ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
 第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リテ功勞アル職員ニハ勅任官又ハ委任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ六百圓以内判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ四百圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
 第七條 教員ニシテ舍監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
 第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
 第九條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得
 第十條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得
 第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増加スルコトヲ得ス但シ委任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸千百參拾圓以下ノ者及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸七拾五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス
 第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若クハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタルモノニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ年俸千百參拾圓以下又ハ月俸七拾五圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
 第十三條 退職後一年以内ニ再任セラルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス
 前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得
 前二項ノ規定ハ年俸千百參拾圓以下又ハ月俸七拾五圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
 退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セララルル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 第十四條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス
 第十五條 休職者ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スル場合ニ於テ休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得
 第十六條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 第十七條 高等官官等俸給令第二十三條乃至第二十九條ノ規定ハ勅任官又ハ委任官待遇ヲ受クル職員ニ關シ判任官俸給令第十三條乃至第十四條ノ規定ハ判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス
 第十八條 俸給、旅費其他諸給與ニ關スル規定ハ地方長官之ヲ定ム

第一號表

學校長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
17,000円	15,500円	14,000円	12,500円	11,000円	9,500円	8,000円	6,500円	5,000円	3,500円	2,000円	1,500円	1,000円
教授	17,000円	15,500円	14,000円	12,500円	11,000円	9,500円	8,000円	6,500円	5,000円	3,500円	2,000円	1,000円
生徒主事	17,000円	15,500円	14,000円	12,500円	11,000円	9,500円	8,000円	6,500円	5,000円	3,500円	2,000円	1,000円

第四號表

高等專門學校	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
17,000円	15,500円	14,000円	12,500円	11,000円	9,500円	8,000円	6,500円	5,000円	3,500円	2,000円	1,500円	1,000円
助教授	17,000円	15,500円	14,000円	12,500円	11,000円	9,500円	8,000円	6,500円	5,000円	3,500円	2,000円	1,500円
生徒主事補	17,000円	15,500円	14,000円	12,500円	11,000円	9,500円	8,000円	6,500円	5,000円	3,500円	2,000円	1,500円

七、公立學校職員分限令

(大正四年勅令第三號)

高等專門學校	書記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
17,000円	15,500円	14,000円	12,500円	11,000円	9,500円	8,000円	6,500円	5,000円	3,500円	2,000円	1,500円	1,000円	1,000円

第一條 本令ハ公立ノ大學、專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官委任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ適用ス
 第二條 公立學校職員ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リニ非サレハ其ノ職ヲ免セラルルコトナシ
 第三條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其職ヲ免スルコトヲ得
 一 不具、廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
 二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免職ヲ願出テタルトキ
 三 學校編制ノ變更ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
 前項第一號ノ規定ニ依リ其職ヲ免スルトキハ勅任官又ハ委任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官高等懲戒委員會、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス
 第四條 公立學校職員ハ廢職若ハ廢校ノ場合又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ當然退職者トス
 第五條 第八條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ又ハ第八條第二項ノ規定ニ依リ休職トナリ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス
 第六條 公立學校職員ハ其意ニ反シテ待遇ヲ下シ又ハ俸給ヲ減セラルルコトナシ
 第七條 文官分限令第九條及第十條ノ規定ハ公立學校職員ニ關シ之ヲ準用ス
 第八條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得
 一 懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ
 二 刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキ
 三 學校編制變更其他ノ事由ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
 四 教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スルトキ

五 教育上又ハ事務上必要ナルトキ
 公立學校職員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ師範學校訓導ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スルモノハ此限ニ在ラス
 第九條 休職ノ期間ハ前條第一項第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第五號ノ場合ニ在リテハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ二年、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ一年トシ第四號及前條第二項ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙ホ三月トス
 第十條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ之ヲ受ケサルノ外總テ在職者ト異ナルコトナシ
 第十一條 文官分限令第十四條ノ規定ハ公立學校職員ニ之ヲ準用ス

八、官吏服務紀律 (明治二十年勅令第三十九號)

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ處爲アルヘカラス
 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ
 第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
 裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得
 第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス
 第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス
 第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
 官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其響應ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
 - 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
 - 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
 - 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
 - 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者
- 第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
 第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス
 第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス
 第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス
 第十四條 浪費シテ産ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ
 第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乗車切符ヲ受クルコトヲ得ス
 第十六條 凡テ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス
- 第十七條 本規律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

九、公立ノ專門學校長實業專門學校長高等學校長職務規程 (大正十四年文部省訓令)

第一條 學校長ハ判任官ノ待遇ヲ受クル職員ノ進退ヲ地方長官ニ申請シ高等官ノ待遇ヲ受クル職員ノ進退ニ付意見ヲ具ヘ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
 第二條 學校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ノ待遇ヲ受クル職員ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得
 第三條 左ノ事項ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外學校長之レヲ專行スヘシ但シ第二號及第七號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ第三號ニ關シ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者又ハ公立私立專門學校規程第七條第一號乃至第三號ニ該當スル者ヲ教員ニ採用シタルトキ亦同シ

- 第一 學科ノ擔任及事務ノ分課ヲ定ムルコト
- 第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト
- 第三 官吏ノ待遇ヲ受ケサル職員ノ進退ニ關スルコト
- 第四 職員ノ内國各地出張ニ關スルコト
- 第五 職員ノ除服出仕請假ニ關スルコト
- 第六 職員ノ任地外居住官廳其ノ他ノ事業囑託ニ應スルノ願ニ關スルコト
- 第七 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト
- 第四條 學校長ハ毎年會計年度ノ終ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ文部大臣ニ報告スヘシ
- 第五條 第一條ノ稟申並第三條及第四條ノ報告ハ地方長官ヲ經由スヘシ

一〇、陸軍現役將校學校配屬令(抄) (昭和二十四年) (勅令第二百四十八號)

- 第一條 官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學豫科、專門學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ青年學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣、文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ
- 配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得
- 第四條 陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閲セシムルコトヲ得

一一、陸軍現役將校學校配屬ニ關スル訓令(抄) (大正十四年) (文部省訓令第五號)

國民ノ心身ヲ健全ニ發達セシメテ其資質ヲ向上セシメ以テ國力ヲ増進シ國運ノ隆昌ヲ圖ルハ内外現時ノ情勢ニ鑑ミ最モ喫緊ノ一要務タリ而シテ其目的ノ達成ハ主トシテ之ヲ教育ノ效果ニ待タルヘカラス故ヲ以テ明治維新以來教育ノ制度ヲ定ムルヤ思フ此ニ致シテ施設經營シ明治十九年教育法令ヲ改正スルニ當リ特ニ學校ニ於テ兵式體操ヲ課スルコトトセリ當時一般ノ學校ニ於テ教師モ生徒モ熱心ニ事ニ此ニ從ヒタレハ其ノ教育ノ實績ヲ進メタル功顯著ナルモノアリタリ然ルニ時勢ノ變遷ニ伴ヒ學校ニ於ケル兵式體操モ動モスレハ當初

ノ精神ト乖離シ徒ニ形式ニ流レテ其ノ眞髓ヲ失ハムトスル傾向ナキニアラズ是ニ於テ大ニ之ヲ振作シテ體育ヲ促進スルト共ニ德育ヲ裨補シ併セテ國防能力ノ増進ヲ圖ルノ必要朝野ニ論議セラルルニ至レリ誠ツテ世界ノ大勢ヲ察スルニ大戦以來歐米諸國ニ於テハ國民訓練又ハ軍事豫備教育ト稱スルモノ著シク發達シ之ニ依リテ實質剛健ノ士風ヲ振起シ社會民心ヲ善導シ且國民ノ間ニ國防思想ヲ普及セシムムコトヲ期セリ我カ國ハ列強ニ先チテ學校教育ニ兵式體操ヲ加ヘ國民訓練ノ實ヲ示シタルニ拘ラス近時却テ彼ニ一籌ヲ輸スルノ情態ニ在ルハ頗ル遺憾トスル所ナリ

内外ノ情勢右ニ述ヘタルカ如シ當局ニ於テハ夙ニ學校ニ於ケル教練ヲ一層振作スルノ方針ヲ定メ之カ爲ニハ現役將校ヲシテ其ノ指導ノ任ニ當ラシムルコトノ有效ナルヲ認メ之カ實行方法等ニ就キテ考究ヲ重ネタル結果今般其ノ實現ヲ見ルニ至レリ

抑々學校ニ於テ教練ヲ課スルノ目的ハ學生生徒ノ心身ヲ鍛鍊シテ其資質ヲ向上セシムルニ在リ換言スレハ國家的觀念ヲ明徴ニシテ獻身奉仕ノ精神ヲ振起シ自主自立ノ習慣ヲ馴致シテ責任ヲ盡シ規律ヲ重シ節制ヲ守リ協同ヲ尙ヒ且命令ニ服從スルノ氣風ヲ作興シ身體ヲ強壯ニシ志氣ヲ鼓舞シ更ニ堅忍敢爲ノ精神ヲ涵養スルニ在リ而シテ之カ勵行ニ依リテ國防能力ヲ増進セシムルノ結果ヲ生スルハ論ヲ須タス

今次ノ施設ハ現役將校ヲ學校ニ配屬セシメ教練ノ教授ニ當ラシムルモノナレトモ之ヲ以テ在來勤務セル教練ノ教師ニ代ヘムトスルノ趣旨ニアラスシテ教練ノ教授能率ヲ増大シ其ノ實施ヲ一層適切有效ナラシメトスルニ外ナラス隨ツテ配屬將校ハ當該學校長ノ監督ノ下ニ立チ其ノ指揮ニ基キテ業務ニ従事スヘキハ勿論其ノ教授ニ際シテモ善ク他ノ學科目トノ聯絡ヲ保チ學生生徒心身發達ノ狀況ニ應シ別ニ定ムル教授科目ニ準據シテ之ヲ實行スヘキモノトス

地方長官及學校當事者ハ克ク其ノ趣旨目的ヲ體シ相當設備ノ充實ヲ圖ルコトニ力メ且運用宜シキヲ制シ以テ其ノ實績ヲ舉クルニ遺憾ナカラムコトヲ期スヘシ

一二、教員免許令 (明治三十三年) (勅令第三百三十四號)

- 第一號 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得
- 第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス
- 第四條 教員檢定ハ試験檢定及無試験檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコト得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金七圓ヲ納付スヘシ

第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ

第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス

附 則

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

一三、師範學校中學校高等女學校教員檢定規程(抄)

(昭和七年八月三十日) (文部省令第十五號ヲ以テ改正)

第一條 教員檢定ハ受檢者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身、公民科、教育、國語漢文、歴史、地理、外國語、數學、理科、家事、裁縫、手藝、實業、圖畫、手工、音樂、作業科、體操

國語漢文ハ國語、漢文、習字ノ三部ニ、外國語ハ英語、獨語、佛語、支那語ノ四部ニ、理科ハ動物、植物、礦物、生理及衛生、物理、化學ノ六部ニ、手藝ハ刺繡、造花、編物、染色、機織ノ五部ニ、實業ハ農業、工業、商業、簿記ノ四部ニ、圖畫ハ日本畫用器畫、西洋畫用器畫ノ二部ニ、體操ハ體操、教練、劍道、柔道ノ四部ニ分テ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部又ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其手数料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

師範學校專攻科並ニ高等女學校高等科及專攻科教員ノ檢定ハ家事、裁縫ニ限り之ヲ行フ此ノ場合ニ於テ家事ハ衣服、食物住居及家事經濟、育兒看護家庭衛生及生理ノ二部ニ、裁縫ハ和服裁縫、洋服裁縫ノ二部ニ分テ檢定ヲ出願スルコトヲ得其ノ手数料ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第三條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限及試驗ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣ニ於テ之ヲ告示シ試驗施行ノ期日及注意ハ教員檢定委員會長ニ於テ之ヲ公告ス

第四條 檢定ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ豫備試驗ヲ受クヘキ者ハ其ノ受檢地ノ地方廳其ノ他ノ者ハ便宜ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スヘシ

一 第二號書式ノ履歷書及受檢資格ニ關スル學校卒業證書若ハ教員免許狀ノ寫

二 第五條第一號、第二號、第四號、第五號及第九號ニ該當スル者ニ在リテハ第三號書式ノ當該學校長證明書、同條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ第四號書式ノ試驗檢定合格證明書、同條第六號ニ該當スル者ニシテ教員免許狀授與地方廳以外ノ地方廳ヲ經由スル場合ニ在リテハ第五號書式ノ授與地方廳證明書、第十一條第一項第二號ニ該當スル者ニ在リテハ第六號書式ノ相當官署ノ證明書

三 第七號書式ノ學校醫ノ身體檢查書但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ醫師法ニ依ル醫師ノ身體檢查書ヲ以テスルモ妨ナシ

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得但シ師範學校專攻科並ニ高等女學校高等科及專攻科教員ノ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ高等師範學校、女子高等師範學校、臨時教員養成所、專門學校若ハ專門學校ト同等以上ノ學校トシテ文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者又ハ當該學科目ニ關シ教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者ニ限ル

一 中學校卒業者

二 高等女學校及高等女學校實科若ハ實科高等女學校卒業者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

關係法令

一〇九

- 四 專門學校入學者檢定期程第十一條ニ依リ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者
- 五 兵役法施行令第百條第三號又ハ文官任用令第六條第一號ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者
- 六 小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員、小學校專科正教員若ハ小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者
- 七 教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者
- 八 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
- 九 文部大臣ニ於テ某學科目ニ關シ適當ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者
- 十 第一號及第二號ニ準スヘキ學歷アル者

第六條 (削除)

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者及選科修了者
- 二 第五條各號ノ一ニ該當スル者ニシテ卒業者ノ教員無試験檢定ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三箇年以上在學シテ卒業シタル者但シ體操科ヲ修ムル者ニ在リテハ二箇年以上トシ修業年限四箇年ノ高等女學校、高等女學校實科若ハ實科高等女學校ノ卒業者並第五條第三號ニ該當スル者及第四號中修業年限四箇年ノ高等女學校卒業者ニ準スヘキ者又ハ修業年限五箇年ノ高等女學校第四學年修了者ニ在リテハ家事、裁縫、體操、手藝ノ一科目又ハ數科目ヲ修ムル場合ノ外四箇年以上トス
- 三 高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者
- 四 實業學校教員免許狀ヲ有スル者
- 五 第五條第一號乃至第八號ニ該當スル者ニシテ外國ノ大學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者
- 六 相當ノ學歷ヲ有シ師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ニ於テ五箇年以上檢定ヲ受ケントスル學科目ノ教授ヲ擔任シ其ノ成績優良ナル者
- 第七條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ師範學校專攻科並ニ高等女學校高等科及專攻科ノ家事又ハ裁縫ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得
- 一 學位ヲ有スル者
- 二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者
- 三 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者

四 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者

五 相當ノ學歷ヲ有シ師範學校專攻科、高等女學校高等科又ハ專攻科、女子高等師範學校、臨時教員養成所、專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ五箇年以上當該學科目ノ教授ヲ擔任シ其ノ成績優良ナル者

第八條 試験檢定ヲ分テテ豫備試験、及本試験トス但シ師範學校專攻科並ニ高等女學校高等科及專攻科教員ノ試験檢定ニ於テハ豫備試験ヲ行ハス

豫備試験ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試験ニ合格シタル者ニアラサレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ス
豫備試験ニ合格シタル者ハ次ノ試験檢定ニ於テ同一ノ學科目ニ付出願スル場合ニ限リ豫備試験ヲ免ス
國語漢文ノ内國語ノ豫備試験ニ於テハ漢文ヲ、漢文ノ豫備試験ニ於テハ國語ヲ併セ課ス
理科ノ内各部ノ豫備試験ニ於テハ一般理科ヲ併セ課ス

第九條 試験ハ受驗者出願ノ學科目ニ就キ其ノ教員タラントスル學校ノ學科目ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシテ之ヲ行ヒ國民道徳要領、教育大意及教授法ノ試験ヲ併セ行フ但シ教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者若ハ小學校本科正教員ニ對シテハ本文國民道徳要領及教育大意、修身科出願者ニ對シテハ國民道徳要領、教育科出願者ニ對シテハ教育大意ノ試験ヲ行ハス

第十條 豫備試験ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ
前項試験ノ施行ハ東京府ヲ除クノ外地方長官之ヲ監督ス
本試験ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長ニ於テ之ヲ公告ス
第十一條 體操ノ内教練ノ試験檢定ヲ出願シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キテハ教練ノ試験ヲ免ス

一 陸軍歩兵科士官
二 陸軍歩兵科下士官任官後滿四箇年以上現役ニ服シタル者
體操ノ内教練、劍道、柔術ノ試験ハ女子ニ對シテハ之ヲ行ハス
第十二條 日本畫用器畫又ハ西洋畫用器畫ノ試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ日本畫、西洋畫又ハ用器畫ノ一以上ニ關シ成績優良ナルトキハ教員檢定委員會長ハ其ノ部分ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スヘシ

歴史ノ試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ日本史、東洋史又ハ西洋史ニ關スル各部分ニ就キ成績優良ナルトキ亦同シ
前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ同一學科目ニ就キ檢定ヲ出願シタルトキハ其ノ證明書ニ記載セサル部分ニ就キ本試験ヲ行フ
第十三條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタル者及試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

參照

教員無試験檢定ニ關シ文部大臣ノ指定(抄) (明治三十六年) (文部省告示第三十號)

高等商業學校

本科 英語(當該學科目成績優等ナル者ニ限ル)、商業、簿記

一四、公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程(抄) (明治四十八年) (文部省令第二十八號)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者、大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 文部大臣ノ指定シタル者

四 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者

參照

公立私立實業學校教員資格ニ關シ文部大臣ノ指定(抄) (大正八年七月八日) (文部省告示第九十二號)

官立公立實業專門學校本科卒業者

一五、海軍武官任用令(抄) (昭和九年) (勅令第四十二號)

第十五條 主計少尉ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ任用ス

二 海軍主計學生ト爲リ大學令ニ依ル大學ノ附屬商學專門部又ハ高等商業學校ヲ卒業シタル者

三 大學令ニ依ル大學ノ附屬商學專門部又ハ專門學校令ニ依ル專門學校ニ於テ法學、經濟學又ハ商學ニ關スル課程ヲ卒ヘタル者ニシテ身體檢査ニ合格シタルモノ

一六、高等試驗令(抄) (昭和四年) (勅令第十五號)

第四條 高等試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試験トス

豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者ハ豫備試験ヲ免ス豫備試験ニ合格シタル者ハ爾後豫備試験ヲ免ス

一七、高等試驗令第七條及第八條ニ依ル受験資格ニ關スル件(抄)

(大正七年) (文部省令第三號)

第二條 左ノ者ハ高等試驗令第八條ニ依リ高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者ト同等以上ト認ム

一 大學學部ニ學生トシテ入學シ現ニ在學スル者又ハ卒業シ若ハ學士試験ニ合格シタル者

二 文部大臣ニ於テ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ヲ卒業シタル者

一八、計理士法(抄) (昭和二年) (法律第三十一號)

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ計理士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スルモノニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 計理士試験ニ合格シタルコト

計理士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士タル資格ヲ有ス

一 會計學ヲ修メタル經濟學博士又ハ商學博士

二 帝國大學若ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ會計學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ專門學校令ニ依ル專門學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

三 主務大臣ニ於テ前號ニ掲クル學校ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

關係法令

一九、兵役法(抄) (昭和二十二年法律第四十七號)

- 第一條 帝國臣民タル男子ハ本法ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ服ス
- 第五條 現役ハ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年トシ現役兵トシテ徵集セラレタル者之ニ服ス
現役兵ハ現役中之ヲ在營セシム
- 第六條 豫備役ハ陸軍ニ在リテハ五年四月、海軍ニ在リテハ四年トシ現役ヲ終リタル者之ニ服ス
- 第七條 後備兵役ハ陸軍ニ在リテハ十年、海軍ニ在リテハ五年トシ常備兵役ヲ終リタルモノ之ニ服ス
- 第八條 第一補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二年四月、海軍ニ在リテハ一年トシ現役ニ適スル者ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服ス
- 第二補充兵役ハ十二年四月トシ現役ニ適スル者ノ中現役又ハ第一補充兵役ニ徵集セラレサル者及海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス但シ海軍ノ第一補充兵役終リタル者ニ在リテハ十一年四月トス
- 第十一條 現役兵ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者ノ在營期間ハ六月以内之ヲ短縮スルコトヲ得
- 第二項 (略)
- 第四十一條 中學校又ハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ學校ノ修業年限ニ應シ年齡二十七年ニ至ル迄徵集ヲ延期ス
- 前項ニ規定スル認定及年齡ノ區分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ在學ノ事由止ム年又ハ其翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ但シ一ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以内ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ付テハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト見做ス
- 第二項ノ年齡ノ區分ニ基ク最高年齡ニ達スルモ在學ノ事由尙止マサル者ハ最高年齡ニ達シタル年又ハ其翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ
- 第四十二條 徵兵適齡及其前ヨリ帝國外ノ地ニ在ル者(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ徵集ヲ延期ス
- 前項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ其事由止ム年又ハ其翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ
- 第四十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ニシテ直系尊屬若ハ妻子死亡若ハ重態ノ爲又ハ官廳ノ命ニ依リ一時帝國内ニ歸還スル者ハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス但シ歸還後ノ滞在期間九十日間ヲ超ユルトキハ此限ニ在ラス(後略)
- 第五十六條 豫備兵及後備兵ハ勤務演習ノ爲豫備役及後備兵役ヲ通シ五回以内之ヲ召集スルコトヲ得

- 前項ニ規定スル召集ハ一年一回トシ一回ノ日數ハ陸軍ニ在リテハ三十五日以内海軍ニ在リテハ七十日以内トス
- 第六十一條 歸休兵豫備兵後備兵又ハ補充兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ勤務演習召集又ハ簡閱點呼ヲ免除スルコトヲ得
 - 一 餘人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル官吏又ハ官吏待遇者
 - 二 市町村長、助役、收入役其他之ニ準スヘキ職ニ在ル者
 - 三 帝國議會、府縣會、市町村會其他之ニ準スヘキモノノ議員但シ其會期中ニ限ル
 - 四 帝國外ノ地ニ旅行又ハ在留スル者
 - 五 帝國外ノ地ヲ往復スル帝國船舶ノ船員

二〇、兵役法施行令(抄) (昭和二十二年勅令第三百三十號)

- 第一百條 左ニ掲クルモノハ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校トス
 - 一 師範學校、實業學校(尋常小學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限五年又ハ之ト同等以上ノモノニ限ル)高等學校、大學令ニ依ル大學豫科、專門學校、高等師範學校、大學令ニ依ル大學學部、臨時教員養成所、實業學校教員養成所及青年學校教員養成所
但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク
 - 二 宮内大臣、文部大臣以外ノ各省大臣、朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使又ハ樺太廳長官ノ所轄學校ニシテ前號ニ掲クル學校ニ準スルモノ
但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク
 - 三 前二號ニ掲クル以外ノ學校又ハ前二號ニ掲クル學校ノ別科ニシテ陸軍大臣及文部大臣ニ於テ認定ヲ爲シタルモノ
- 第一百一條 兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齡左ノ如シ

學校ノ區分	最高年齡
師範學校 高等科及專攻科 大學令ニ依ル大學豫科 修業年限三年又四年ノ專門學校 高等師範學校(專攻科ヲ除ク) 前條第一號ニ掲クル教員養成所	年 齡 二 十 五 年
修業年限五年以上ノ專門學校 高等師範學校專攻科 大學令ニ依ル大學學部	年 齡 二 十 七 年

前條第二號又ハ第三號ニ該當スル學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齡ハ其ノ入學資格及修業年限ニ應シ前項ノ規定ニ準シ陸軍大臣之ヲ定ム

二一、陸軍補充令(抄) (昭和十年勅令第二六四號) (昭和十年勅令第三二六號)

第五十二條 豫備役士官ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ補充ス

- 一 各兵科士官(技術ニ從事スヘキ者ヲ除ク)各兵科幹部候補生(技術ニ從事スヘキ者ヲ除ク)ニシテ少尉ニ任セララルノ資格ヲ具フル者
- 二 (略)
- 三 經理部士官、經理部幹部候補生ニシテ三等主計ニ任セララルノ資格ヲ具フル者
- 四 (略)
- 五 (略)
- 第五十三條 各兵科幹部候補生(技術ニ從事スヘキ者ヲ除ク)ハ左ニ掲クル資格ヲ具ヘ幹部候補生タルコトヲ志願スル者ノ中人格成績共ニ優秀且家庭良好ニシテ陸軍大臣ノ定ムル銓衡ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 豫備役及後備役ノ士官又ハ下士官タルノ希望ヲ有スル者

二 現役兵トシテ概ネ三月以上在營シタル者

- 三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者但シ(イ)乃至(ハ)ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校ノ配屬將校(陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號ニ依リ配屬シタル將校ヲ謂フ以下之ニ同シ)ノ行フ教練ノ檢定ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス
- (イ) 配屬將校ヲ附シタル學校(研究科、選科等ノ別科ヲ除ク)ヲ卒業シタル者
- (ロ) 配屬將校ヲ附シタル高等學校高等科又ハ大學令ニ依ル大學豫科ノ第一學年ノ課程ヲ修了シタル者
- (ハ) 配屬將校ヲ附シタル學校ニシテ陸軍大臣ニ於テ高等學校高等科ト同等以上ト認ムルモノノ第一學年ノ課程ヲ修了シタル者
- (ニ) 陸軍士官學校豫科生徒若ハ陸軍經理學校豫科生徒ノ第一學年ノ課程又ハ海軍兵學校、海軍機關學校若ハ海軍經理學校ノ第一學年ノ課程ヲ修了シタル者
- (ホ) 文部省直轄商船專門學校ノ席上課程ヲ修了シタル者

教練ノ檢定ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五十四條 技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生及各部幹部候補生ハ前條ニ規定スル資格ノ外尙左ニ掲クル資格ヲ具ヘ幹部候補生タルコトヲ志願スル者ノ中人格成績共ニ優秀且家庭良好ニシテ陸軍大臣ノ定ムル銓衡ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

二 經理部幹部候補生、法律、經濟又ハ商業ニ關スル學科ヲ教授スル專門學校又ハ陸軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シタル者

三 (略)

第五十五條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者ハ幹部候補生タルコトヲ得ス

第五十六條 (略)

第五十七條 (略)

- 一 豫備役士官タルヘキ幹部候補生(甲種幹部候補生ト稱ス)
- 二 豫備役下士官タルヘキ幹部候補生(乙種幹部候補生ト稱ス)

前項ノ區分ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

關係法令

第五十九條 幹部候補生ノ修業期間ハ現役兵ノ入營期日ヨリ起算シ一年ニ滿ツル日迄トス
第六十條 (略)

第六十一條 幹部候補生ニ對シテハ採用ノ後直ニ一等兵(衛生部ニ在リテハ一等看護兵)ノ階級ヲ與フ
甲種幹部候補生ニ對シテハ直ニ上等兵(衛生部ニ在リテハ上等看護兵)ノ階級ニ、爾後概ネ二月ノ後伍長ノ階級ニ、更ニ概ネ二月ノ後軍曹ノ階級ニ進ム
前項ノ規定ニ依リ下士官ノ階級ニ進ムル場合ニ於テ各部幹部候補生ノ階級ハ各部及階級ノ區分ニ從ヒ計手、看護長又ハ階級工長ノ階級トス

乙種幹部候補生ニ對シテハ直ニ上等兵(衛生部ニ在リテハ上等看護兵)ノ階級ニ進ム
第六十二條 甲種幹部候補生ニ對シテハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ修業期間ノ終ニ於テ終末試験ヲ行ヒ其ノ成績ト平素ニ於ケル勤務ノ成績トヲ參酌シ合格ヲ決定ス
疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ前項ノ終末試験ヲ受クルコトヲ得サル者ハ逐次次年ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得

第六十二條ノ二 前條ノ終末試験ニ合格シタル者ヲ將校同相當官ト爲スノ可否ハ銓衡會議ニ於テ之ヲ決ス
前項ノ銓衡會議(技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生ノ銓衡會議ヲ除ク)ノ組織ニ關シテハ第十條、第二十五條ノ七、第三十八條又ハ第四十七條ノ例ニ依ル

技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生ノ銓衡會議ハ技術教育ニ任シタル部隊ノ將校ヲ以テ之ヲ組織ス
第六十二條ノ三 前條ノ銓衡會議ニ於テ可決セラレタル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ現役起算ノ日ノ屬スル年ノ翌々年ニ於テ之ヲ召集シ士官ノ勤務ニ服セシム其ノ期間左ノ如シ

- 一 左ニ掲タル學校ヲ卒業シ且當該學校ニ於テ配屬將校ノ行ヲ教練ノ檢定ニ合格シタル者ニ在リテハ概ネ一月
 - (イ) 大學令ニ依ル大學ノ學部若ハ豫科又ハ高等學校高等科
 - (ロ) 專門學校、高等師範學校又ハ陸軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校
 - (ハ) 中學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限二年以上ノ學校
 - 二 (略)
 - 三 (略)
- 疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ前項ノ召集ニ應シ得サル者ハ逐次次年ニ於テ之ヲ召集ス

前二項ノ規定ニ依リ召集セラレタル者ハ豫備役見習士官ヲ命ス但シ各部ニ在リテハ豫備役ノ見習主計、見習醫官、見習藥劑官又ハ見習獸醫官ヲ命スルモノトス
前項ニ掲クル者ノ身分取扱ハ現役見習士官ニ準ス
第六十二條ノ四 前條ノ士官ノ勤務ヲ了リタル幹部候補生ハ左ノ區分ニ依リ當該兵科部ノ士官ニ任セラレルノ資格ヲ具フルモノトス

各兵科幹部候補生		少尉
經理部幹部候補生		三等主計
衛生部幹部候補生	醫師免許證ヲ有スル者	三等軍醫
	藥劑師免許證ヲ有スル者	三等藥劑官
獸醫部幹部候補生		三等獸醫

第六十二條ノ五 幹部候補生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ幹部候補生ヲ免ス

- 一 他ノ兵籍ニ編入セラレタル者
 - 二 軍紀ヲ紊リ若ハ屢々法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者
 - 三 成績不良ニシテ修業ノ見込ナキ者
 - 四 疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ修業ノ見込ナキ者
 - 五 前各號ニ掲クル者ノ外豫備役ノ幹部タルニ適セスト認メタル者
- 幹部候補生ニ採用セラレタル者本人ニ依ルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生シタルトキハ本人ノ願ニ依リ幹部候補生ヲ免スルコトヲ得

第六十二條ノ六 第五十八條ノ規定ニ依リ區分ヲ爲シタル後ニ於テ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ成績ヲ參酌シ甲種幹部候補生ヲ乙種幹部候補生ト爲シ乙種幹部候補生ヲ甲種幹部候補生ト爲スコトアルヘシ
前項ノ規定ニ依リ甲種幹部候補生ヲ乙種幹部候補生ト爲シタル場合ニ於テ現ニ軍曹同相當官又ハ伍長同相當官ノ階級ヲ有スル者ハ之ヲ上等兵(衛生部ニ在リテハ上等看護兵)ノ階級ト爲ス

關係法令

二二、陸軍召集規則(抄) (昭和二十一年)

第二百五十六條 陸軍現役將校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號ノ規定ニ依リ現役將校ヲ配屬シタル學校ノ生徒ノ簡閱點呼ハ當該配屬將校ヲシテ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ實施セシムルコトヲ得

二三、學校教練及青年訓練修了者檢定規程(抄) (昭和二十二年)

學校教練檢定規程(抄) (昭和二十二年)

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教練ノ檢定ニ於テ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

- 一 正當ノ事由ナクシテ屢々教練ニ闕席シタル者其ノ他教練實施ニ於テ怠慢ナリシ者、思想正順ヲ缺ク者又ハ素行不良ナル者ニシテ屢々訓戒ヲ受クルモ改悛セサルモノ
- 二 前學校ニ於ケル檢定ニ合格シタルト否トニ拘ラス其ノ成績不良ナル者
- 三 (略)

前條ノ規定ニ依リ合否ヲ決定スルニハ最終學年以前ノ學年及前學校ニ於ケル教練ノ成績ヲ參酌スルコトヲ要ス

第五條 配屬將校ハ第一條ニ規定スル教練ノ檢定ヲ行ヒ其合否ヲ決定シタルトキハ之ヲ本人ニ通告シ且合格シタル者ニシテ教練檢定ノ合格ニ關スル證明書ノ下付ヲ願出ツルモノアルトキハ前條ノ教練檢定原簿ニ基キ教練檢定合格證明書(附錄第二樣式)ヲ調製シテ之ヲ下付スヘシ

二四、各大學入學規則

東北帝國大學法文學部規程(抄)

第一條 本學部へ入學志望ノ者ニ對シ選拔試驗ヲ行フ場合ニハ高等學校高等科文科ノ授業科目中三科目以上ニ就キ之レヲ行フ外國語ノ試験ヲ行フ場合ニ在リテハ志望者ヲシテ英、獨、佛語中其ノ一ヲ選ハシム

第二條 左ニ記載スル者ハ通則第六條ノ定ムル場合ニ限リ本學部ニ入學スルコトヲ得

- 一 高等師範學校、女子高等師範學校、高等商業學校、外國語學校其他之レト同種同等程度以上ノ專門學校卒業者ニシテ本學部ノ授業ニ堪フト認メタル者
 - 二 專門學校卒業者中本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者ニシテ檢定試験ニ合格シタル者
- 前項各號ノ志望者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試験ヲ行フ

九州帝國大學法文學部規程(抄)

第一條 九州帝國大學通則第六條第二號ニ依リ本學部ニ於テ行フ學力檢定試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ如シ

- 一 高等師範學校、女子高等師範學校、高等商業學校若クハ外國語學校ヲ卒業シタル者
- 二 前號ニ掲ケタル以外ノ專門學校卒業生ニシテ本學部ニ於テ適當ト認メタル者
- 三 選科生ニシテ本學部講義ノ六單位ノ試験ニ合格シタル者

第二條 九州帝國大學通則第七條第二項及第八條第二項ニ依リ本學部ニ於テ選拔試験ヲ行フ場合ニ於テ其ノ試験科目ハ臨時教授會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

東京商科大學學則(抄)

第九條 本學豫科卒業者ハ本學ニ入學スルコトヲ得

- 前項ノ入學者ヲ收容シタル後尙餘裕アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ銓衡ノ上入學ヲ許ス
- 一 官公立高等學校高等科ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ニ於テ之レト同等以上ノ學力アリト認メタル者

神戸商業大學學則(抄)

本學部ニ入學スルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 高等學校高等科(文科又ハ理科)ヲ卒業シタル者
- 一 高等商業學校ヲ卒業シタル者

大阪商科大學學則 (抄)

第八條 學部ニ入學シ得ル者ハ本大學豫科修了者トス

前項ノ入學者ヲ收容シ尙餘裕アルトキハ左記各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ銓衡ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

- 一 大阪商科大學高等商業部又ハ元大阪市立高等商業學校卒業者
- 二 高等學校高等科卒業者
- 三 大學令ニ依ル大學豫科修了者
- 四 大正七年文部省令第三號ニ依リ指定セラレタル學校ノ卒業者ニシテ本大學ニ於テ適當ト認メタル者

二五、學生生徒兒童身體檢查規程 (抄) (大正九年 文部省令第十六號)

第一條 學生生徒兒童身體檢查規定ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ム得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得 監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢查ノ全部若クハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若クハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得 學校職員又ハ他ノ適當ナル者ヲシテ身體檢查ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一 發育 (身長、體重、胸圍、概評) 二 榮養 三 脊柱 四 視力及屈折狀態 五色神 六 眼疾 七 聽力 八 耳疾 九 齒牙 十 其ノ他ノ疾病及異常 十一 監察ノ要否
- 前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得 色神檢查ハ在學中一回行ヒタルトキハ其後之ヲ省略スルコトヲ得

(以下略)

第四條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 檢查ノ表記ニハ度ハセンチメートル、衡ハキログラムヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ夫々單位ノ下一位ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ (以下略)

- 三 體重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其衣ノ重量ヲ全量ヨク除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ (以下略)
- 五 發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三ニ分ツモノトス
- 六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其中間ナルヲ乙トス
- 七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意志ニ依リ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス
- 八 視力ハ萬國式視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ檢查シ裸眼視力ヲ記入スヘシ

裸眼視力一〇以上ナルヲ正視眼トス

屈折機ノ異常アルモノハ其種別ヲ記入スヘシ

弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ

九 色神ハ其異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十 聽力ハ其障礙ノ有無ヲ檢查スヘシ

十一 齒牙ハ齲齒ニ就キ檢查スヘシ

十二 其他ノ疾病及異常ハ檢查ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障礙、貧血、脚氣傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大「ヘルニヤ」、神經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ

十三 監察ノ要否ハ檢查ノ結果心身ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

第五條 第一條第一項ノ身體檢查ヲ施行シタルトキハ其結果ヲ身體檢查票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其部類毎ニ別票ヲ用フルモノトス 第一條第二項ノ臨時身體檢查ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體檢查票裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ

他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其身體檢查票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ身體檢查票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ 第六條 身體檢查ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其結果ヲ本人若クハ其保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若クハ其保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其他必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限り直轄學校公立私立ノ大學高等學
校及專門學校ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方官ニ報告スヘシ

第八條 (略)

第九條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

(身體検査票略) (學生生徒兒童身體検査統計表略)

二六、發育概評決定標準 (昭和二年三月十二日 文部省訓令第二號)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

一、七年ヨリ十八年マテノ男子七年ヨリ十六年マテノ女子ニ在リテハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何
レモ左記發育標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年年長ノ者ノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年少ノ者ノ標準以上ナルヲ

乙トシ甲乙何レニモ該當セサル者ヲ丙トス (以下略)

二、十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長一六〇・六センチメートル體重五三・六キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三三

四以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一五七・〇センチメートル體重四八・八キログラム身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・

三一以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

三、(略)

發育概評決定標準表

年 齡	身 長	體 重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
十 七 年	一五七・〇	四八・二	〇・三〇七
十 八 年	一五九・一	五〇・七	〇・三一九
十 九 年	一六〇・三	五二・六	〇・三二八

附

錄

一、兵庫神戸高等商業學校學友會會則

第一條 本會ハ兵庫縣立神戸高等商業學校學友會ト稱ス

第二條 本會ハ會員ノ親睦ヲ厚クシ協同ノ精神ヲ養ヒ心身ヲ鍛鍊シ以テ善良ナル校風ヲ振興センコトヲ期ス

第三條 本會ハ本校生徒及職員ノ全員ヲ以テ會員トス

第四條 本會ノ目的ヲ達成スル爲メ本會ニ左ノ諸部ヲ設ク

- | | | |
|-----|-------|-----|
| 總務部 | 會計部 | 雜誌部 |
| 語學部 | 音樂部 | 劍道部 |
| 競技部 | ラゲビー部 | 蹴球部 |
| 庭球部 | 籃球部 | 排球部 |
| 山岳部 | 水泳部 | 馬術部 |
| | | 卓球部 |
| | | 野球部 |
| | | 柔道部 |
| | | 講演部 |

第五條 會員ハ總テ特別ノ理由アル場合ノ外何レノ部ニモ參加スルコトヲ得

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- | | | |
|-------|-------|---|
| 一 會長 | 壹名 | 本校校長ヲ以テ會長トス |
| 一 副會長 | 壹名 | |
| 一 部長 | 各部壹名 | 職員會員中ヨリ會長之ヲ委囑ス |
| 一 理事 | 若干名 | |
| 一 委員 | 各部若干名 | 毎學年各年級毎ニ生徒會員ノ互選ニ依リテ委員候補者若干名ヲ選出シ其候補者中ヨリ會長之ヲ命ス但シ第一學年級第一學期間ハ選舉ニ依ラス會長之ヲ命ス |

一 委員 長

各部委員名

每學年各部委員ノ互選ニ依リ候補者若干名ヲ選出シ其候補者中ヨリ會長之ヲ命ス

第七條 會長ハ前條役員ノ外必要ニ應シ顧問主事又ハ臨時委員ヲ設クルコトヲ得

役員ノ職務

第八條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アル時ハ之ヲ代理ス

部長ハ會長統制ノ下ニ各部ノ事業ヲ指導監督ス

理事ハ部理事及指導理事ニ分チ部理事ハ部ニ分屬シ部長ヲ輔佐シテ部ノ事務ヲ掌理シ指導理事ハ部外ニ在リテ諸部ノ運動又ハ學藝ノ指導ニ任ス

委員長、副委員長及委員ハ各部ニ分屬シ部長ノ指導監督ノ下ニ部ノ事務ヲ處理ス

代 議 員

第九條 生徒會員ハ每學年各學級毎ニ互選ニ依リ代議員四名ヲ選出ス但シ第一學年級ノ第一學期間ハ選舉ニ依ラス會長之ヲ命ス
代議員ハ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

會 議

第十條 會議ヲ分チテ役員會代議員及ヒ部長會ノ三トス

第十一條 役員會ハ副會長、部長、理事、委員長及副委員長ヲ以テ之ヲ組織シ代議員會ニ提出スヘキ豫算案原案各部次年度ノ行事及ヒ其他重要ナル案件ヲ審議ス

役員會ニハ會長ノ指名シタル職員會員ヲ以テ議長トス

第十二條 代議員會ハ豫算案決算報告及會長ノ諮問事項ヲ審議ス

代議員會ノ議長及副議長ハ代議員ノ互選ニ依リ毎年之ヲ定ム

役員會員ハ員外トシテ代議員會ニ出席スルコトヲ得

第十三條 部長會ハ副會長、部長及理事ヲ以テ組織シ代議員會ノ決議シタル豫算案及其他會長ノ諮問事項ヲ審議ス
部長會ニハ會長又ハ副會長ヲ以テ議長トス

第十四條 會議ハ會長之ヲ召集ス

役員會及代議員會ハ每年壹回以上之ヲ召集シ部長會ハ必要ニ應シ隨時ニ之ヲ召集ス

第十五條 役員會ノ定足數ハ會議員數ノ五分ノ三トシ決議ハ出席者過半數ノ同意アルヲ要ス

代議員會ノ定足數ハ會議員數ノ三分ノ二トシ決議ハ出席者過半數ノ同意アルヲ要ス

第十六條 會議ノ決議ハ會長ノ認可ヲ經テ其ノ効力ヲ生ス

會 計

第十七條 生徒會員ハ總テ入學ノ當時入會金參圓及會費貳拾四圓ヲ納ムルモノトス

職員會員ハ別ニ定ムル所ニ依リ每學年會員平均八圓ニ相當スル總額ヲ納ムルモノトス

既納ノ入會金及會費ハ一切返付スルコトナキモノトス

第十八條 會費ノ收入ハ之ヲ本會經常費ニ充ツ但シ職員會員ノ會費收入ハ之ヲ豫備費ニ充ツ

入會金ノ收入ハ特別會計トシ其ノ一半ハ重要ナル臨時費ニ充テ他ノ一半ハ會員ノ福利増進其他臨時ノ必要ニ應スヘキ費用ニ充ツ

第十九條 各部毎年度剩餘金ハ其部ノ翌年度別途豫備費ニ編入ス

別途豫備費ノ支途ニ就テハ會長ノ認可ヲ受クルヲ要ス

其他ノ經常費剩餘金ハ翌年度ニ繰越スモノトス

特別會計毎年度ノ剩餘金ハ翌年度ニ繰越シ積立ツルモノトス

第二十條 會計年度ハ學年ニ依ル

第二十一條 寄附金品ノ受領及處分ハ會長ノ承認ヲ經ルヲ要ス

會 則 變 更

第二十二條 本會會則ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ代議員會及役員會ノ聯合會議ニ於テ之ヲ議定シ會長ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

第二十三條 聯合會議ハ會長之ヲ召集シ會長又ハ會長ノ指名シタル職員會員ヲ以テ議長トス

第二十四條 聯合會議ノ定足數ハ代議員及役員會員總數ノ四分ノ三トシ決議ハ出席者三分ノ二ノ同意アルコトヲ要ス

本會則實施ニ必要ナル規程ハ部長會ニ諮詢シテ會長之ヲ定ム

役員選舉規程

委員候補者及代議員選舉規程

- 第一條 委員候補者及代議員ノ選舉ハ每學年ノ始ニ於テ會長ノ定ムル期日ニ之ヲ行フ但シ第一學年級ニ限リ第二學期ノ始ニ於テ之ヲ行フ
- 第二條 生徒會員ハ左ノ場合ヲ除キ總テ委員候補者及代議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス會員ノ職務ヲ履行セサル者ハ其間選舉權及被選舉權ヲ停止ス本校代表選手タルヘキ資格ヲ停止セラレタル者進級シ得スシテ原學年ニ留リタル者及停學ノ處分ヲ受ケタル者ハ其學年間被選舉權ヲ停止ス
- 第三條 選舉ハ單記名投票トス
他人ヲ代理シテ投票スルコトヲ得ス
- 第四條 會長ハ選舉事務處理ノ爲メ職員會員及生徒會員ヨリ選舉委員若干名ヲ委囑ス
- 第五條 投票用紙ハ總務部之ヲ作成シテ選舉委員ニ交付シ選舉委員ハ選舉場ニ於テ選舉人ニ之ヲ交付ス
- 第六條 最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選トシ同數得票者二人以上アル時ハ年長者ヲ以テ當選トス
代議員ノ當選者ハ總務部ニ於テ資格審査ヲナシタル後之ヲ發表ス
- 第七條 委員ニ缺員ヲ生シタルトキハ次點者ヲ以テ委員候補者トナシ代議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ次點者ヲ以テ之ヲ補充ス

學友會會計規定

- 第一條 會計部ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 豫算決算ニ關スル事務
 - 二 金品出納ニ關スル事務
 - 三 豫備費及特別會計ノ支出ニ關スル件
 - 四 各部會計ノ監査
- 第二條 會計部長ハ每年十二月中ニ翌年度收支豫算原案ヲ作成シ各部提出ノ經費概算書ヲ添ヘ會長ニ提出スヘシ

- 第三條 豫算原案ノ作成ニ當リテハ會計部長ハ會計部理事會計部委員及各部委員長又ハ副委員長ヲ召集シ協議ノ上之ヲ決定スルモノトス
- 第四條 會計部長ハ入會金會費及寄附ノ金品等ヲ收受シ之カ保管ノ任ニ當ル
- 第五條 收受シタル現金ハ會長ノ名義ヲ以テ銀行預金及郵便貯金等ノ方法ニヨリテ保管スルモノトス但シ支拂準備金トシテ必要アル時ハ金額五拾圓未満ニ限リ現金保管ヲナスコトヲ得
- 第六條 豫算ニ從ヒ各部ヨリ支拂請求アリタルトキハ別ニ定ムル支拂請求票ニヨリ支拂ヲナスヘシ但シ豫算以外ノ支拂ハ關係部長ノ請求ニ基キ會長ノ認可アリタル場合ニ限リ之ヲ行フ
- 第七條 金品ノ受拂ハ帳簿ヲ備ヘテ記錄シ證據書類ト共ニ之ヲ保存スヘシ但シ收支現計表ハ毎月十日マテニ會長ニ提出スルモノトス各部委員長ハ其ノ部ノ會計帳簿ヲ備ヘ毎年五月及十月中ニ會計部長ノ監査ヲ受クヘシ
- 第八條 已ムヲ得サル事由ニヨリ豫算費目流用ノ必要ヲ生シタルトキハ當該部長ハ別ニ定ムル費目流用理由書ヲ作成シ會計部長ヲ經テ會長ニ提出シ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第九條 豫備費ノ支出ハ會長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス重要ト認ムルモノニ就テハ會長ハ部長會ニ諮詢スルモノトス
- 第十條 特別會計ノ支出ハ部長會ニ諮詢シテ會長之ヲ決ス但シ金額貳百圓ヲ超ユル場合ハ部長會ノ外役員會又ハ代議員會ニ諮詢スルモノトス
重要ナラサル小額ノ支出ハ會計部長ニ於テ會長ノ認可ヲ經テ之ヲ行フコトヲ得
- 第十一條 會計部長ハ毎年五月中ニ前年度收支決算表ヲ作成シ證據書類ヲ添ヘ會長ニ提出スヘシ

一、研究編輯會會則

- 一、本會ハ本校教職員ノ學術上ノ研究調査ノ結果ヲ編輯シ之ヲ會員ニ頒チテ教授上ノ資料ニ供シ且ツ之ヲ公表スルヲ以テ目的トス
- 二、本會ハ本校教職員及全生徒ヲ以テ會員トシ校長ヲ以テ會長トス
會長ハ職員會員中ヨリ本會委員若干名ヲ委囑シ本會ノ事務及會計ヲ掌ラシム
- 三、職員會員ハ每學年金壹圓ノ會費ヲ納メ生徒會員ハ入學ノ當時三學年ニ付金參圓ノ會費ヲ納ムルモノトス

三、神商會會則

第一條 本會ハ神商會ト稱ス

附 錄

第二條 本會ハ兵庫縣立神戸高等商業學校職員及生徒父兄ノ親睦ヲ計リ學校ノ事業ヲ援助スルヲ以テ目的トス
 第三條 本會會員ハ同校在學生ノ父兄保證人及同校特別縁故者ノ有志ヨリナル
 第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 十五名 (但シ内三名ヲ常任理事トス)
 評議員 若干名
 顧問 三名

理事ハ本會一切ノ會務ヲ處理ス
 常任理事ハ理事ノ互選ヲ以テス

評議員ハ會員ヨリ選舉シ本會ノ評議ニ與リ且ツ互選ヲ以テ理事ヲ選舉ス
 顧問ハ同校校長及ヒ校長理事協議ノ上推薦シタル同校職員ニ委嘱ス

評議員ノ任期ハ其ノ保證スル生徒ノ在學期間トス但シ特ニ縁故又ハ功勞アルモノハ此ノ限リニアラス
 理事ノ任期ハ一年トス但シ重任ヲ妨ケス

第五條 本會ハ毎年四月總會ヲ開ク尙理事會ノ決議ニヨリ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得
 理事會評議員會ハ常任理事隨時之ヲ召集ス

第六條 本會ハ春秋二季學校側ト懇談會ヲ開催ス
 第七條 本會ノ會員ハ入會ノ際一時限リ金貳拾圓ヲ據出スルモノトス但シ其年内ニ分納スルコトヲ妨ケス

第八條 本會ハ有志ノ寄附アリタル時ハ之ヲ受ク
 第九條 會費ハ經常費ヲ除キ其他ノ費途ハ評議員會ニ於テ之ヲ定ム

第十條 本會會則ハ總會ノ決議ニヨリ變更スルコトヲ得

四、神戸高等商業學校 淡水會會則

第一章 總 則

第一條 本會ハ神戸高等商業學校淡水會ト稱ス

第二條 本會ハ會員相互ノ交誼ヲ篤ウシ母校ノ發展ニ資シ併セテ社會ニ貢獻センコトヲ以テソノ目的トス

第三條 本會ノ本部ハ之ヲ神戸高等商業學校内ニ置ク

第二章 會 員

第四條 本會會員ヲ分チテ正會員特別會員及ヒ名譽會員ノ三トス

第五條 左ニ掲クル資格ヲ有スル者ヲ以テ正會員トス

一 神戸高等商業學校ヲ卒業シタル者

一 同校ニ在學シタル者ニシテ會員總會ノ承認シタル者

第六條 神戸高等商業學校現教職員及ヒ會員總會ノ推薦シタル母校舊教職員ヲ以テ特別會員トス

第七條 母校並ヒニ本會ニ特別ノ關係アルモノニシテ會員總會ノ推薦シタル者ヲ以テ名譽會員トス

第八條 本會會員ニシテ本會會則又ハ會員總會ノ決議ニ違反シ又ハ本會ノ體面ヲ汚ス行爲ヲナシタル者ハ會員總會ノ決議ニヨリ除名スルコトアルヘシ

第三章 役 員

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會長一名 會長ハ會員總會ノ決議ニヨリ正會員、特別會員若ハ名譽會員中ヨリ之ヲ推戴ス、尙ホ在任期間ハ三ヶ年トス、但再選スルヲ妨ケス

一 顧問若干名 顧問ハ特別會員及名譽會員中ヨリ常議員會ノ推薦ニヨリ之ヲ置ク事ヲ得

一 幹事十名以内 幹事ハ常議員會ニ於テ常議員ノ互選ニヨリ之ヲ定ム

一 常 議 員 常議員ハ各卒業年度正會員中ヨリ三名ツツ之ヲ互選ス

第十條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

第十一條 顧問ハ會務ノ相談ニ與ル

第十二條 幹事ハ幹事會ヲ組織シ常務ヲ處理ス

第十三條 常議員ハ常議員會ヲ組織シ會務ヲ審議ス

常議員ノ決議ハ出席者ノ多數決ニヨル

第十四條 常議員及ヒ幹事ノ任期ハ二ヶ年トシ再選スル事ヲ妨ケス

第十五條 本會ハ事務囑託ヲ置ク事ヲ得

第四章 會員總會

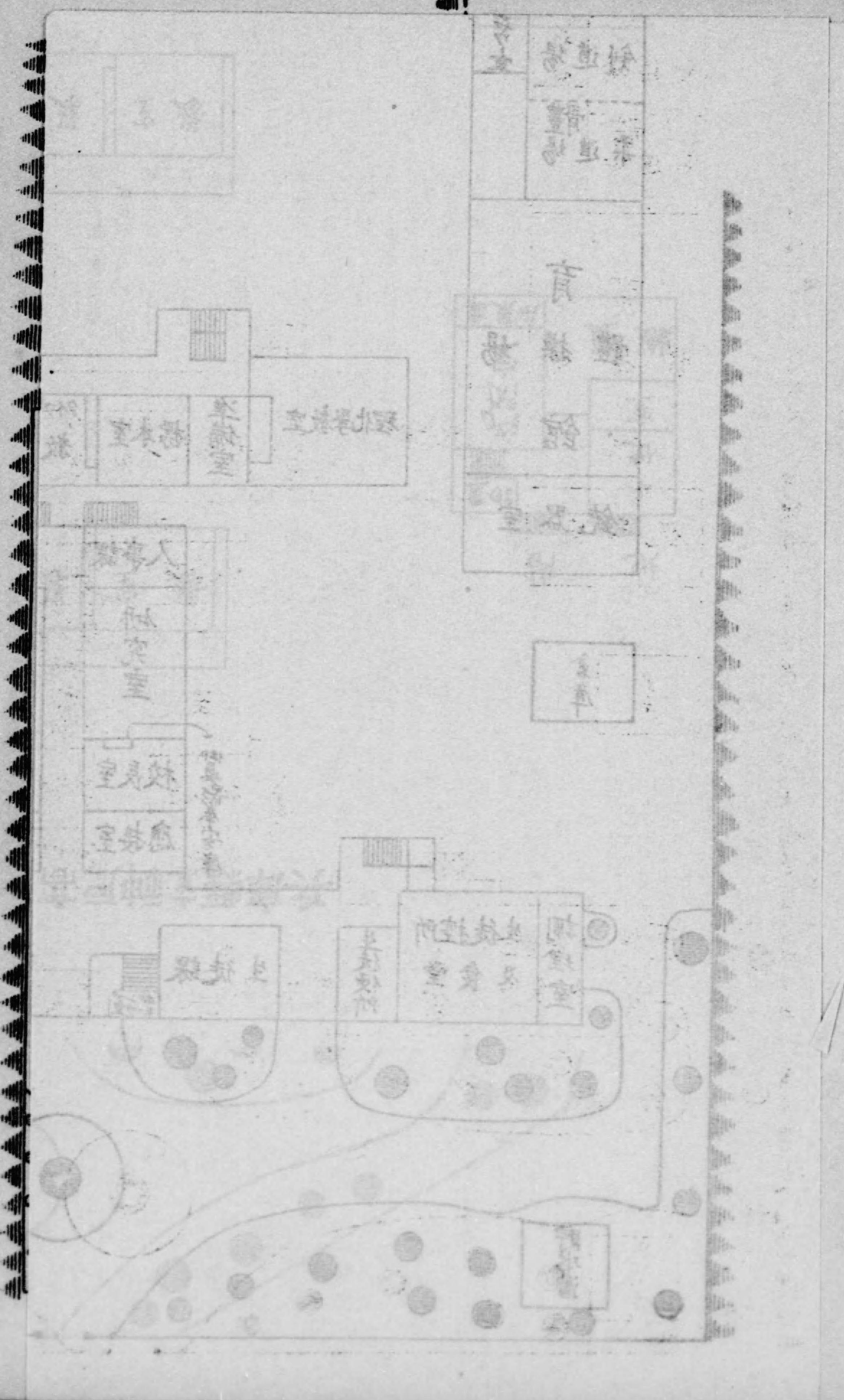
- 第十六條 會員總會ヲ分チテ通常總會及ヒ臨時總會ノ二トス
通常總會ハ毎年一回之ヲ開キ臨時總會ハ必要ニ應ジ之ヲ開ク
- 第十七條 會員總會ハ會長之ヲ召集ス但シ臨時總會ハ常議員會ノ決議アル時會長之ヲ召集スルモノトス
- 第十八條 會員總會ニ於テハ役員ノ選舉、會計ノ報告、會則ノ變更其ノ他重要事項ノ決議ヲナス
- 第十九條 會員總會ノ決議ハ會則變更ノ場合ヲ除ク外出席議員ノ過半数ヲ以テス、可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニヨル
- 第二十條 會員總會ノ議長ハ幹事ノ互選ニヨリ之ヲ定ム

第五章 會計

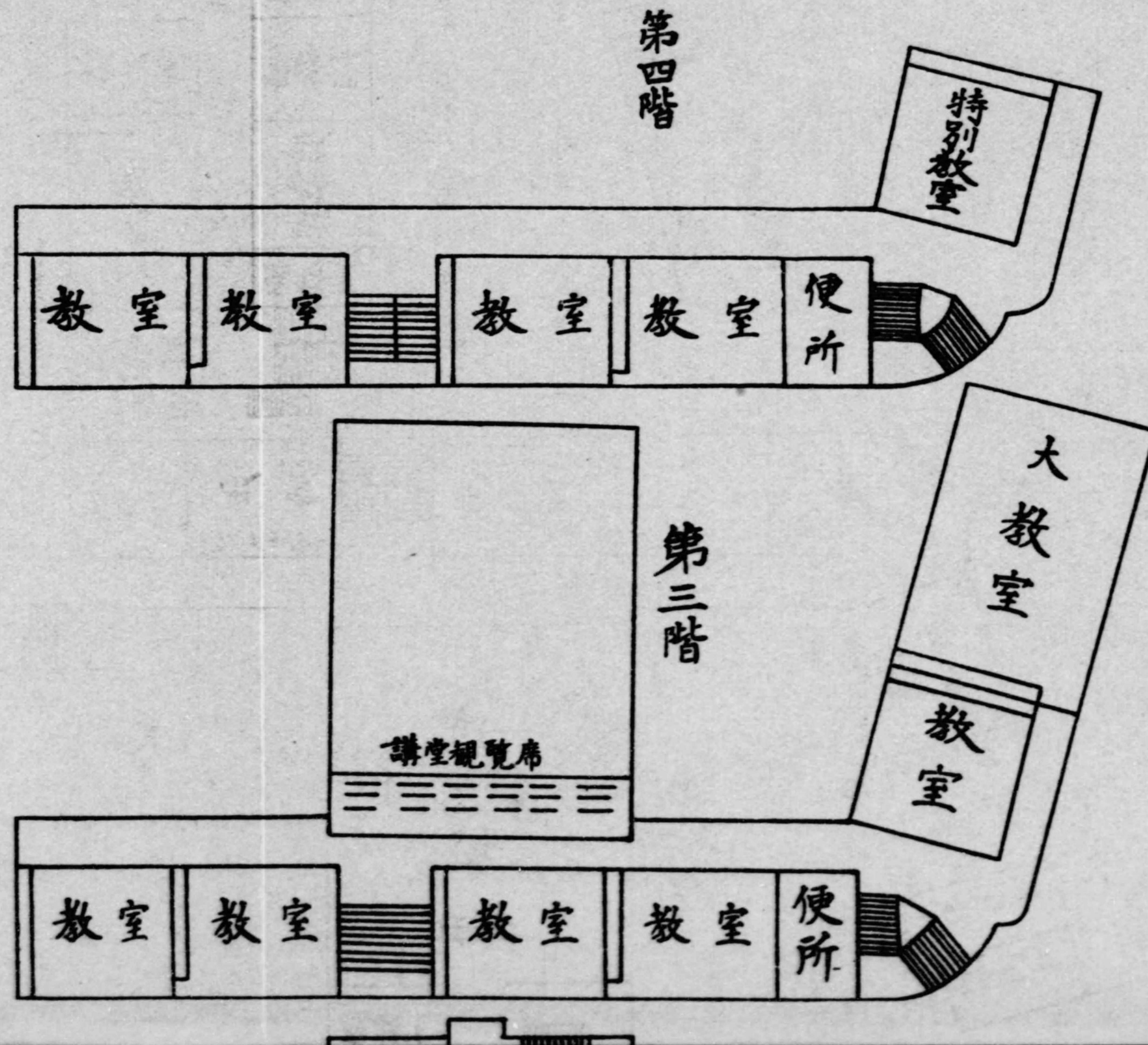
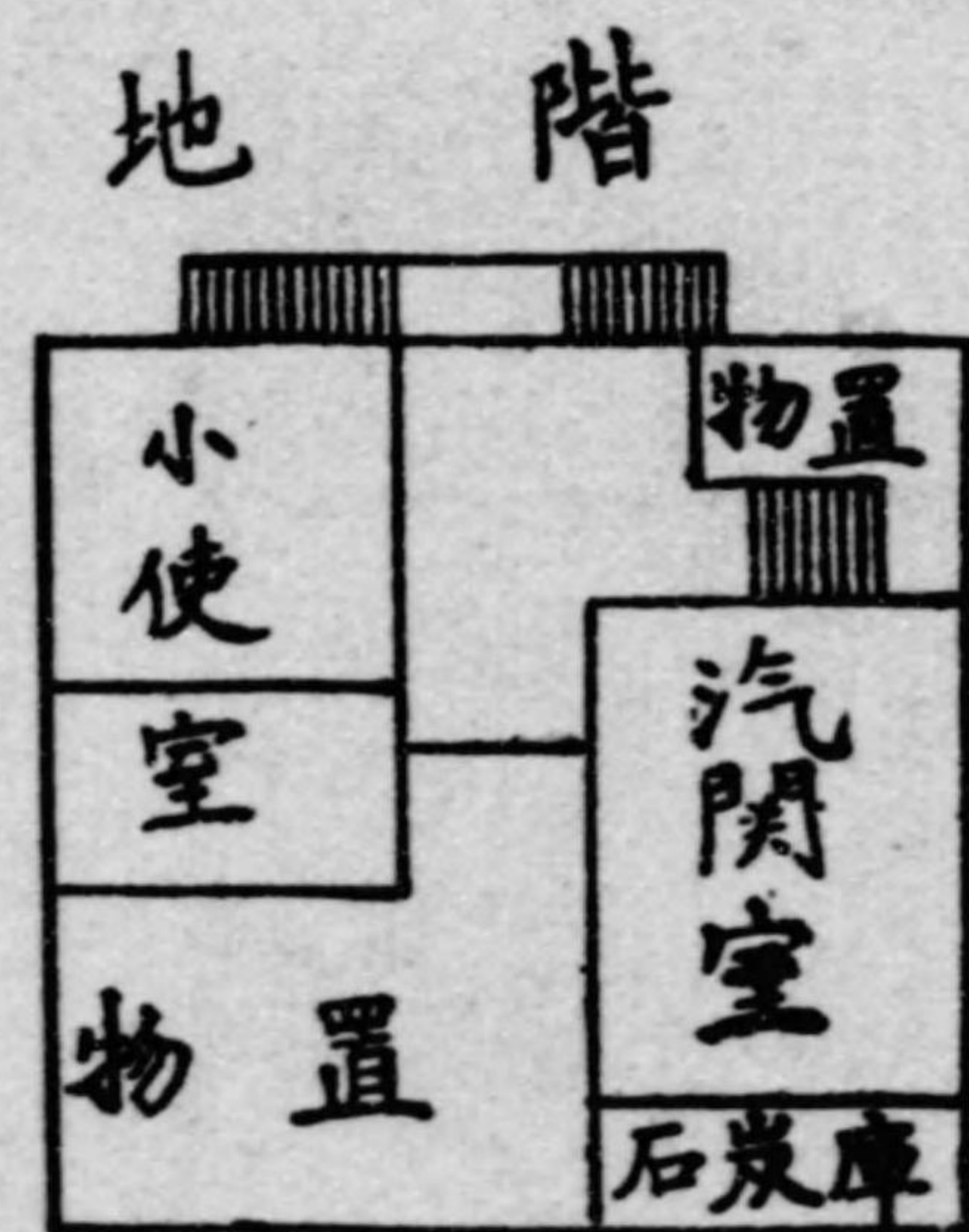
- 第二十一條 正會員ハ終身會費トシテ金貳拾圓ヲ納付スルモノトス
- 第二十二條 既納ノ會費ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返還セス
- 第二十三條 本會ノ收支決算ハ會員總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ
- 第二十四條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第六章 雜 則

- 第二十五條 本會會則ハ會員總會ノ決議ニヨルニ非サレハ變更スル事ヲ得ス此場合決議ハ出席會員ノ四分ノ三以上ヲ以テス
- 第二十六條 本會ハ毎年二回以上會報及毎年一回名簿ヲ發行シ會員ニ配布シ尙常議員會ニ於テ本會ノ目的上適當ト認ムル其ノ他ノ事業ヲモ行フ
- 第二十七條 地方在住ノ會員ハ本會會則ニ牴觸セサル範圍ニ於テ其ノ地ニ支部ヲ設クルコトヲ得
- 第二十八條 特別會員及ヒ名譽會員ハ總會決議ノ數ニ加ハラサルモノトス
- 第二十九條 附 則
- 第九條ノ運用ニツキテハ未定員中ハ當分ノ間適宜ノ處置ヲ採ルコトヲ得



兵庫縣立神戸高等商業學校配置圖



教室 教室 教室 教室 厕所

剣道場
柔道場
體育操場
銃器室

應接室
講堂
第二階
研究室
研究室
研究室
研究室
書庫

理化學教室 準備室 標本室 タイプライター教室 商品室 研究室 便所

倉庫

人事課
研究室
校長室
應接室
醫務室
教務課
事務課
職員室
圖書閱覽室
圖書事務室
書庫

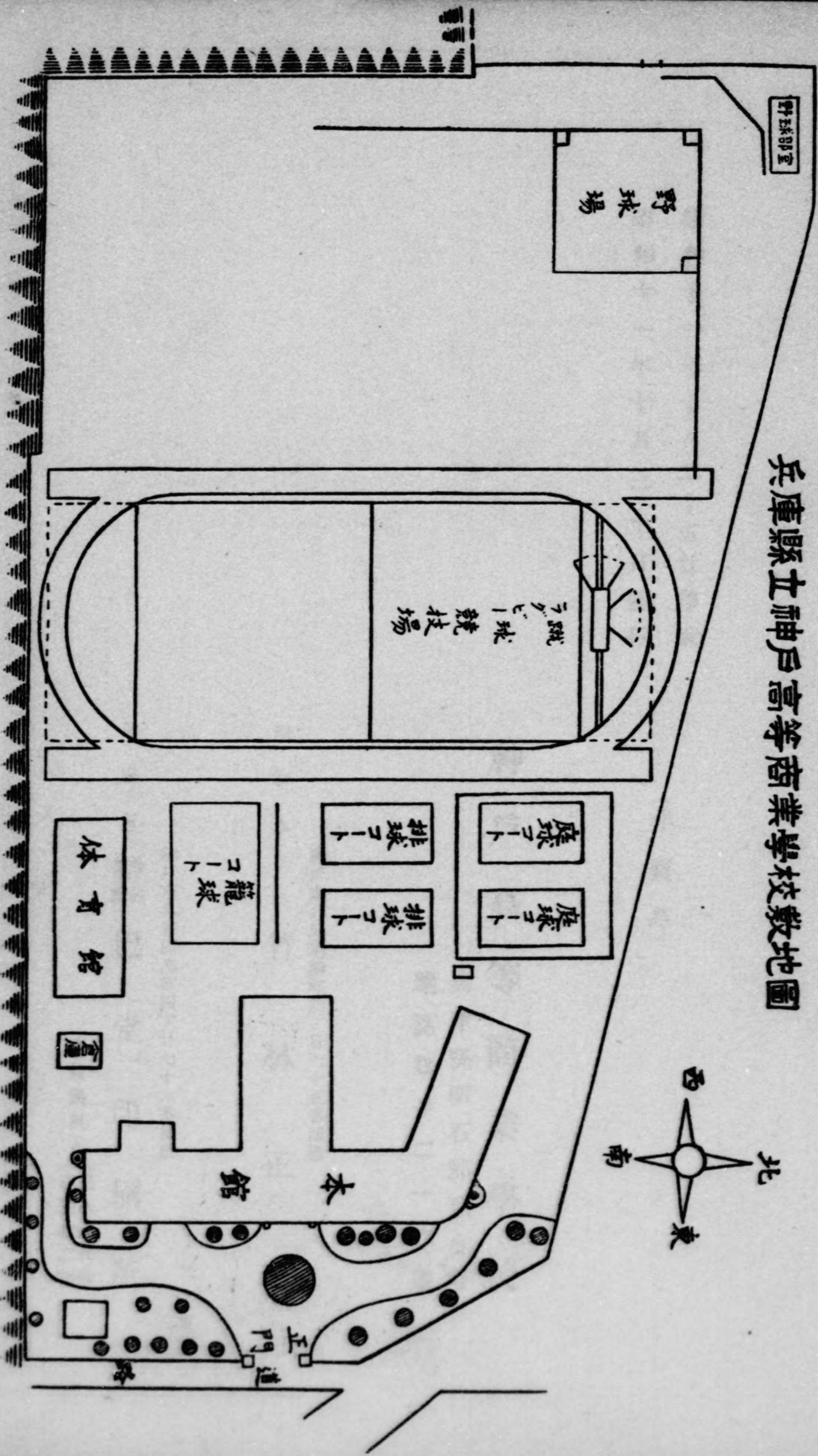
調理室 生徒控所及食堂 生徒便所 生徒課 受付 集會室 職員所

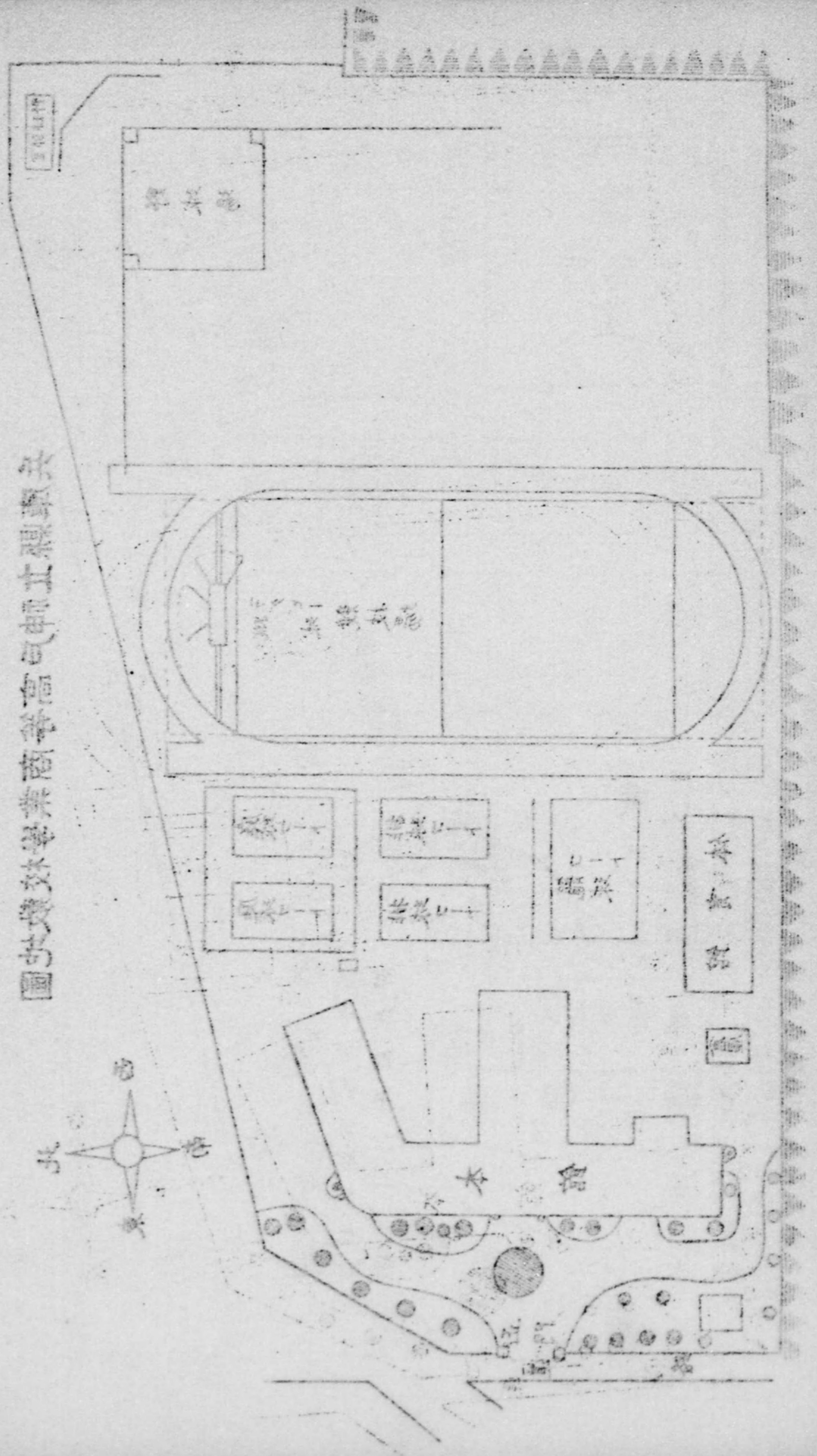
貯水槽





兵庫縣立神戸高等商業學校敷地圖





兵庫県立神戸商業高等学校敷地計画図

昭和十一年十月二十五日印刷
 昭和十一年十月三十日發行

(非賣品)

神戸高等商業學校

兵庫縣明石郡垂水町
 電話舞子二一六番

神戸市兵庫區湊町四丁目七十五番屋敷

印刷人 竹 林 正 吉

神戸市兵庫區湊町四丁目七十六番屋敷

印刷所 巴 堂 印刷所

電話漢川⑤ 三三八九六番
 四三四二番

